

## 「奈良市らしい眺望景観」の分析

番号	眺望景観写真	視点場	視対象	眺望空間(主要な構成要素)			抽出根拠			類型				
				近景	中景	遠景	資料・委員	公募	アンケート					
001		奈良県庁屋上広場	【東側】東大寺大仏殿 / 若草山 【西側】奈良市街地 【南側】興福寺五重塔 【北側】聖武天皇陵	【東側】樹林 【西側】奈良市街地 【南側】樹林 【北側】奈良市街地	【東側】東大寺大仏殿 / 樹林 【西側】奈良市街地 【南側】興福寺五重塔 / 樹林 【北側】聖武天皇陵 / 樹林	【東側】若草山等の山並み 【西側】生駒山系の山並み 【南側】奈良市街地 【北側】市街地 / 山並み				-	-	-	-	-
002		大仏池池畔	東大寺大仏殿	大仏池 / 樹林	東大寺大仏殿 / 樹林	若草山等の山並み			-	-			-	-
003		東大寺二月堂裏参道	東大寺二月堂	土塀 / 石畳 / 石段 / 樹木	東大寺二月堂	(観音山)(空)			-	-			-	-
004		東大寺二月堂	奈良市街地	東大寺の堂や塔頭	樹林	奈良市街地 / 東大寺大仏殿 / 生駒山系の山並み			-	-			-	-
005		若草山	東大寺大仏殿 / 奈良市街地	若草山のノシバ / (鹿)	樹林	奈良市街地 / 東大寺大仏殿 / 生駒山系の山並み			-	-			-	-

		奈良市らしさについて						
番号	眺望景観の略称	目に見える景観特性		心で感じる景観特性		情報としての景観特性		
		可視現状	歴史的背景	眺望景観の構成要素の関係	人々の活動や伝説など	観光情報	文人・歌人等の評価	インベントリー
001	奈良県庁屋上広場から奈良市街地、山並み、社寺等への眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・360度の視界が開け、風水思想をもとに築かれた平城京とそれを取り巻く山々、平城京左京に配され、その後の奈良の発展に深く関わってきた東大寺・興福寺を一望できる。</li> <li>・若草山、春日山などの山並みを背景に、数多くの歴史文化遺産が分布する市街地が広がり、歴史的風土を創り出している。</li> <li>【特質】</li> <li>・近景の樹林及び低層市街地の広がり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・奈良県庁舎は昭和40年(1965)、片山光生設計により建築された。景観論争を呼んだ建築である。</li> <li>【視対象】</li> <li>・奈良市街地は、和銅3年(710)の平城遷都により築かれた平城京を基盤として、発展・成熟してきた。平城京は風水思想にもとづき築かれ、東西北を山々に囲まれている。</li> <li>・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。山頂には前方後円墳鬮塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。</li> <li>【視対象】</li> <li>・奈良市街地は、和銅3年(710)の平城遷都により築かれた平城京を基盤として、発展・成熟してきた。平城京は風水思想にもとづき築かれ、東西北を山々に囲まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場・視対象】</li> <li>・風水思想にもとづき築かれた平城京の地形構造を感じることができる。</li> <li>・かつての景観論争の末に名勝区域内に建設された県庁を視点場とし、低層で抑えられた奈良市街地とランドマークとなる歴史文化遺産等から奈良の景観について考えさせられ、その大切さを感じられる。</li> <li>・興福寺の鐘の音が聞こえ、樹林の背後の境内の広がりを感じられる。</li> <li>【視対象・視対象】</li> <li>・若草山は、この山をめぐる東大寺と興福寺の寺領争いの解決のために山上の樹木を焼き払って境界を明確にしたことから禿山になったと言われており、東大寺・興福寺・若草山の3者を一望できる。</li> <li>・聖武天皇は東大寺の大仏の建立で有名であり、東大寺大仏殿と聖武天皇陵を一望できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつに以下がある。</li> <li>「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺、興福寺など奈良市内に点在する社寺や若草山、春日山などの山々は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・平城京や春日山は、万葉集にも多く詠まれている。3-328「あをによし奈良の都は咲く花のにほふがごとく今盛りなり」(小野老)</li> <li>6-1048「たち変り古き都となりぬれば道の芝草長く生ひにけり」(田辺福麻呂歌集)</li> <li>10-1604「秋されば 春日の山の 黄葉見る 奈良の都の 荒るらく惜しむ」(大原真人今城)</li> <li>4-584「春日山 朝立つ雲の 居ぬ日なく 見まくの欲しき 君にもあるかも」(坂上大娘・大伴家持)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・奈良県庁舎は、「公共建築百選」に選ばれている。</li> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺、興福寺、春日山原始林は世界遺産として多くの人に知られている。</li> <li>・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺、興福寺、春日山原始林はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</li> </ul>
002	大仏池池畔からの東大寺大仏殿への眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近景の大仏池の水面が広がりある眺望景観をつくりだすとともに、東大寺大仏殿を水面に映す。</li> <li>・東大寺大仏殿と周辺の樹林、遠方の山並み、大仏池等の自然環境が一体となった歴史的風土を感じられる。</li> <li>・紅葉の季節には、銀杏とのコントラストが大仏殿の甍をより一層美しく際立たせる。</li> <li>【特質】</li> <li>・水面の広がり及び四季を感じさせる豊かな樹林</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・大仏池について、「多門日記」によると、天正17年(1589)、油阪・芝辻村の用水のため上下両池を造ったと記されている。大正13年(1924)、正倉院の防火用水池として上下両池は一つの池に改修された。</li> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺大仏殿は、正式には東大寺金堂という。天平宝字2年(758)に完成後、治承4年(1181)の平重衡などの南都焼討によって焼失。建久元年(1190)の再建時の落慶法要には源頼朝なども列席した。永祿10年(1567)三好・松永の戦いによって再度焼失したが、公慶上人の尽力や徳川綱吉の寄進などにより、元禄4年(1691)に完成。宝永6年(1709)に落慶した。これが現在の大仏殿であり、現在でも世界最大級の木造建築である。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・「平家物語」では、治承4年(1181)の平重衡などの南都焼討によって東大寺大仏殿が焼失した様子が描かれており、東大寺大仏殿のわが国の歴史のなかでの重要性を物語る。</li> <li>「大仏殿の二階の上には千余人のほりあがり、敵の続くのをばせじと、橋をばひいてけり。猛火はまさしうおしかけたり、おめきさげ声、焦熱・大焦熱・無間阿毘の炎の底の罪人も、これにはすぎじとぞみえし、」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺大仏殿は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名勝案内図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺大仏殿については、和辻哲雄が「古都巡礼」のなかで以下のように表現している。</li> <li>「大仏殿の屋根は空と同じ色で、ただこころも錆がある。それが麗らに、空に融け入るように、ふうわりと浮かんでいる。その両端の鳩尾のほのかに、実にほのかに、淡い金色を放っているのが、拝みたいほどありがたく感じられた。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大寺のひとつである。</li> <li>・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</li> </ul>
003	東大寺二月堂裏参道から東大寺二月堂への眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近景から中景にかけて、院・塔頭等の塙(石積及び土塙・練塙)と参道の石畳、石段、庭木が連なり、これらの歴史的要素が軸線を形成し、アイストップとなっている東大寺二月堂の象徴性を引き立たせている。</li> <li>・東大寺二月堂の背景には観音山の樹林地が広がり、遠景を構成している。</li> <li>【特質】</li> <li>・塙(石積及び土塙・練塙)と参道の石畳、石段、庭木の連なり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺二月堂は平重衡の兵火(1180)、三好・松永の戦い(1567)の2回の戦火には焼け残ったが、寛文7年(1667年)、お水取りの最中に失火で焼失。2年後に江戸幕府の援助を得て、従前の規模・形式を踏襲して再建されたものが現在の建物である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象・眺望空間】</li> <li>・奈良には院や塔頭が数多くあり、それらが様々な趣向を凝らした庭をもっている。東大寺二月堂とそれを支えた院・塔頭とが一体となった宗教文化を感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺二月堂の法会「修二会」は「お水取り」とも呼ばれており、大仏開眼供養会の行なわれた天平勝宝4年(752)に始められ、一度も途絶えることなく続けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺二月堂は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名勝案内図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場・視対象・眺望空間】</li> <li>・写真家入江泰吉は、「この参道の、ものさびた光景こそ、いかにも古都奈良らしい情感が漂うたすまじ」と、何度も撮影をしており、入江泰吉の「春めく二月堂裏参道」を契機に、現在、多くの人々が訪れる観光スポットとなっている。</li> <li>【視対象】</li> <li>・司馬遼太郎も好んだ風景であり、「奈良散歩」では文化の定義を「その集団を特色づける歴史的神聖慣習」と仮定し、そのような意味では「東大寺における「文化」は修二会(お水取り)によって決定的に代表される」と記している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大寺のひとつである。</li> <li>・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</li> </ul>
004	東大寺二月堂からの奈良市街地への眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点場が高台に位置しているため、近景から遠景まで広がりあるパノラマ景を望むことができる。</li> <li>・近景から中景には、東大寺の堂、院、塔頭と周囲の自然環境が一体となり、歴史的風土を感じられる。また、その遠方には、奈良市街地や山並みを望むことができる。</li> <li>【特質】</li> <li>・近景の堂、院、塔頭の甍の連なりと緑豊かな樹林</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・東大寺二月堂は平重衡の兵火(1180年)、三好・松永の戦い(1567年)の2回の戦火には焼け残ったが、寛文7年(1667年)、お水取りの最中に失火で焼失。2年後に江戸幕府の援助を得て、従前の規模・形式を踏襲して再建されたものが現在の建物である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場・眺望空間】</li> <li>・奈良には院や塔頭が数多くあり、それらが様々な趣向を凝らした庭をもっている。東大寺二月堂から東大寺を支えた院・塔頭などの配置、甍を望む宗教文化を感じられる眺望景観である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・東大寺二月堂の法会「修二会」は「お水取り」とも呼ばれており、大仏開眼供養会の行なわれた天平勝宝4年(752)に始められ、一度も途絶えることなく続けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・東大寺二月堂は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名勝案内図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・司馬遼太郎も好んだ風景であり、「奈良散歩」では文化の定義を「その集団を特色づける歴史的神聖慣習」と仮定し、そのような意味では「東大寺における「文化」は修二会(お水取り)によって決定的に代表される」と記している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象】</li> <li>・東大寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大寺のひとつである。</li> <li>・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</li> <li>【視点場・視対象・眺望空間】</li> <li>・東大寺二月堂からの夕日は、「日本の夕陽百選」に選定されている。</li> </ul>
005	若草山からの奈良市街地への眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若草山のノシバが奈良盆地への雄大なパノラマ景をつくりだす。</li> <li>・近景には若草山のノシバや鹿が映り、中景には山福の樹林地や東大寺の堂・院・塔頭、遠方には奈良市街地や山並みを望むことができる。</li> <li>【特質】</li> <li>・若草山のノシバの広がり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。元々は樹木の茂った山であったあらし(東大寺山堺四至図)。この山をめぐる東大寺と興福寺の寺領争いの解決のために山上の樹木を焼き払って境界を明確にしたことから禿山になったと言われる。山頂には前方後円墳鬮塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。</li> <li>【視対象】</li> <li>・奈良市街地は、和銅3年(710)の平城遷都により築かれた平城京を基盤として、発展・成熟してきた。平城京は風水思想にもとづき築かれ、東西北を山々に囲まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場・視対象】</li> <li>・風水思想にもとづき築かれた平城京の地形構造を感じることができる。</li> <li>【視点場・眺望空間】</li> <li>・近景に映るノシバと鹿について、ノシバは日本固有のノシバであり、ノシバは鹿との自然のサイクルによって古来から生息し続け、近畿では若草山付近が唯一の自生地となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつに以下がある。</li> <li>「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・若草山は、「奈良名所東山一覽之図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。</li> <li>「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うくひすの 鳴く」(中務卿親王「夫木抄」)</li> <li>「すたつとも みえぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも見るかな」(「宇津保物語」)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場】</li> <li>・若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。</li> <li>・若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。</li> <li>【視点場・視対象・眺望空間】</li> <li>・若草山からの夜景は、「新日本三大夜景」にも選定されている。</li> </ul>

番号	眺望景観の略称	現状課題(概要)							
		眺望景観の阻害のおそれ				眺望景観の阻害状況		眺望景観の活用状況	
		視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物の建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物が建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景の景観構成要素の適切な保全・管理がもたらされる	視対象の保存・管理の不行き届きにより、視対象の質が低下するおそれがある	既に視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物がみられる	既に視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物などがみられる	眺望景観や視点場が十分に認知されていない	視点場やアクセス道等が十分に整備されていない
001	奈良県庁屋上広場からなら市街地、山並み、社寺等への眺望景観	東側、西側、南側の樹林は歴史的風土保存区域、風致地区、名勝及び都市公園区域として保存が図られている。 (・都市公園施設の整備等の際は、高さ・規模への配慮が求められる。)	東側、西側、南側の樹林は歴史的風土保存区域、風致地区、名勝及び都市公園区域として保存が図られている。 (・都市公園施設の整備等の際は、形態・意匠等への配慮が求められる。)	視対象の前景の樹林は、名勝及び都市公園として保存が図られている。	東大寺大仏殿、興福寺五重塔は国宝に指定され、保護が図られている。 ・若草山は名勝奈良公園の区域内であり、保護が図られている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。	特になし	北側への眺望の背景に、旧奈良ドリームランドの工作物が映り込んでいる。奈良奥山ドライブウェイ周辺の森林において遠景で赤茶色に変色した立ち枯れが見られる。	奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。奈良の景観宝地図にもあげられている。また、公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	多くの人が訪れる県庁の屋上である。視点場として整備され、公開されている。
002	大仏池池畔からの東大寺大仏殿への眺望景観	視対象の前景には水面が広がるとともに、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区、名勝奈良公園の区域として保存が図られている。	視対象の前景には水面が広がるとともに、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区、名勝奈良公園の区域として保存が図られている。	視対象の前景の樹林は、名勝及び都市公園として保存が図られている。	東大寺大仏殿は、国宝に指定され、保護が図られている。	特になし	奈良奥山ドライブウェイ周辺の森林において遠景で赤茶色に変色した立ち枯れが見られる。	奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。奈良の景観宝地図にもあげられている。また、公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	奈良公園区域内であり、多くの人が自由に、また安全に眺望景観を享受できる場となっており、特段の整備は求められない。
003	東大寺二月堂裏参道から東大寺二月堂への眺望景観	視対象の前景・背景ともに歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区、名勝奈良公園の区域として保存が図られている。 (・視対象への眺望の背後に映りこむ高さ・規模の都市公園施設等の建設は行わないことが求められる。)	石畳・石段や石積み・土塀・練堀といった歴史的要素の修理・修復等を通じて景観が変容していくおそれがある。各構成要素の修理・修復の方針を定め、必要な助成制度を設けることが求められる。	名勝区域内であり、保存が図られている。 樹木等の適切な管理により、二月堂への眺望を確保することが求められる。	東大寺二月堂は、国宝に指定され、保護が図られている。	特になし	特になし	奈良の景観宝地図にあげられている。また、公募により推薦された眺望景観でもある。入江泰吉の写真によって有名になり、多くの写真家・観光客が訪れており、十分に認知されているといえる。	石畳・石段であり、周囲の歴史的な雰囲気と調和しており、特段の整備は求められない。
004	東大寺二月堂からの奈良市街地への眺望景観	視対象の前景は歴史的風土特別保存地区及、第一種風致地区、名勝奈良公園の区域として保存が図られている。 (・視対象への眺望の前景に映りこむ高さ・規模の都市公園施設の建設は行わないことが求められる。)	視対象の前景は歴史的風土特別保存地区及、第一種風致地区、名勝奈良公園の区域として保存が図られている。 (・都市公園施設の整備等の際は、形態・意匠等への配慮が求められる。)	視対象の前景の社寺建築物は、指定文化財として保存が図られている。 ・近景の樹林は、名勝及び都市公園として保存が図られている。	(・遠景であり、特段の施策は求められない。)	特になし	特になし	奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。奈良の景観宝地図にもあげられている。また、公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	視点場としての整備は行われていないが、特段の整備は求められない。
005	若草山からの奈良市街地への眺望景観	視対象の前景は歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区、名勝奈良公園の区域として保存が図られている。 (・視対象への眺望の前景に映りこむ高さ・規模の都市公園施設の建設は行わないことが求められる。)	視対象の前景は歴史的風土特別保存地区及、第一種風致地区、名勝奈良公園の区域として保存が図られている。 (・都市公園施設の整備等の際は、形態・意匠等への配慮が求められる。)	視対象の前景の樹林は、名勝、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区であり、保存が図られている。	興福寺五重塔などの歴史文化遺産のランドマーク性を維持するため、市街地を低層に抑えることが求められる。	特になし	特になし	奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。奈良の景観宝地図にもあげられている。また、公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	広大な視点場であり、展望台も設けられている。

番号	眺望景観写真	視点場	視対象	眺望空間(主要な構成要素)			抽出根拠			類型					
				近景	中景	遠景	資料・委員	公募	アンケート						
006		奈良奥山ドライブウェイ	東大寺大仏殿	山林	東大寺大仏殿	奈良市街地 / 生駒山系の山並み	-	-	-	-	-	-	-	-	-
007		白毫寺境内	奈良市街地	樹林 / 門 / 石段 / 萩	奈良市街地	奈良市街地 / 生駒山系の山並み						-	-	-	-
008		奈良奥山ドライブウェイ展望所	大和平野	山林	大和平野(奈良市街地 / 農地)	奈良市街地 / 生駒山系の山並み		-	-			-	-	-	-
009		ならまち	興福寺五重塔	家並み	家並み	興福寺五重塔	-					-	-	-	-
010		ならまち	春日山	家並み	家並み	春日山	-					-	-	-	-

		奈良市らしさについて						
番号	眺望景観の略称	目に見える景観特性		心で感じる景観特性		情報としての景観特性		
		可視現状	歴史的背景	眺望景観の構成要素の関係	人々の活動や伝説など	観光情報	文人・歌人等の評価	インベントリー
006	奈良奥山ドライブウェイからの東大寺大仏殿への眺望	<p>・高所からの見下ろしの眺望であり、近景に山林、中景に東大寺大仏殿、遠景に奈良市街地と西方の生駒山系の山並みを望む。</p> <p>・東大寺大仏殿が周囲の山林と一体となって歴史的風土を感じられる。</p> <p>・樹林の中に東大寺大仏殿、興福寺五重塔をはじめとした堂塔が点在するさまが見られる。</p> <p>【特質】</p> <p>・東大寺大仏殿を浮き立たせる緑豊かな樹林</p>	<p>【視対象】</p> <p>・東大寺大仏殿は、正式には東大寺金堂という、天平宝字2年(758)に完成後、治承4年(1181)の平重衡などの南都焼討によって焼失、建久元年(1190)の再建時の落慶法要には源頼朝なども列席した。永祿10年(1567)三好・松永の戦いによって再度焼失したが、公慶上人の尽力や徳川綱吉の寄進などにより、元禄4年(1691)に完成。宝永6年(1709)に落慶した。これが現在の大仏殿であり、現在でも世界最大級の木造建築である。</p>		<p>【視対象】</p> <p>・「平家物語」では、治承4年(1181)の平重衡などの南都焼討によって東大寺大仏殿が焼失した様子が描かれており、東大寺大仏殿のわが国の歴史のなかでの重要性を物語る。</p> <p>・「大仏殿の二階の上には千余人のぼりあがり、敵の続くのをばせじと、橋をばひいてけり、猛火はまさしうおしかけたり、おめきさけぶ声、焦熱・大焦熱・無間阿毘の炎の底の罪人も、これにはすぎじとぞみえし、」</p>	<p>【視対象】</p> <p>・東大寺大仏殿は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名勝案内図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</p>	<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】</p> <p>・写真家入江泰吉が「最も愛し、こだわりつづけた風景のひとつ」である。「古都展望」「秋行(境内)」などの作品がある。</p> <p>【視対象】</p> <p>・東大寺大仏殿については、和辻哲雄が「古都巡礼」のなかで以下のように表現している。</p> <p>「大仏殿の屋根は空と同じ蒼い色で、ただこころもち錆がある。それが靡るに、空に融け入るように、ふうわりと浮かんでいる。その両端の鳩尾のほのかに、実にほのかに、淡い金色を放っているのが、拝みたいほどありがたく感じられた。」</p>	<p>【視対象】</p> <p>・東大寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大寺のひとつである。</p> <p>・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p>
007	白毫寺からの奈良市街地への眺望	<p>・高円山の山麓の白毫寺境内を視点場とし、近景には山林、中景には奈良市街地、遠景には生駒山系を望むパノラマ景である。</p> <p>・奈良盆地の広がり一望でき、北方には興福寺五重塔も望める。</p> <p>【特質】</p> <p>・近景に広がる山林や山門・石段</p>	<p>【視点場】</p> <p>・白毫寺は、聖徳太子(715年)、天智天皇の第7皇子である志貴皇子の没後、天皇の勅願によって皇子の山荘跡を寺としたのに始まると伝えられる。鎌倉時代に再興されました。とくに道照が中国から宋版一切経の写本を持ち帰ってからは一切経寺とも呼ばれ、庶民信仰の場として栄えた。また、かつての高円山付近に存在した石淵寺の一院であったともいう。室町時代に兵火で建物が焼失し衰退したが、江戸時代の寛永頃に興福寺の空慶により復興される。</p>	<p>【視点場 - 視対象】</p> <p>・白毫寺境内の五色橋(奈良県指定天然記念物)は、寛永年間に興福寺の塔頭、喜多院から移植したものとされる。</p> <p>・天智天皇の第7皇子志貴皇子の山荘跡といわれ、また、一切経寺として庶民信仰の場として栄えたように、平城京や奈良の町と関係の深い寺院である。</p>	<p>【視点場】</p> <p>・白毫寺付近には聖武天皇の離宮もあったとされているが、場所は不明である。</p>		<p>【視点場】</p> <p>・白毫寺の位置する高円山は、万葉集に多くの歌が残されている。</p> <p>2-231「高円の 野辺の秋萩いたづらに 咲きか散るらむ 見る人なしに。(笠金村歌集)</p> <p>20-4506「高円の 野の上の宮は 荒れにけり 立たしし君の 御代遣せば(大伴家持)</p>	<p>【視点場】</p> <p>・白毫寺境内の五色橋は、「奈良三名橋」の一つである。</p> <p>【視対象】</p> <p>・奈良盆地(大和平野)は、「疏水百選」に選定されている。</p>
008	奈良奥山ドライブウェイ展望所からの奈良盆地への眺望	<p>・近景に山林、中景に奈良盆地、遠景に生駒山系を望む雄大なパノラマ景である。</p> <p>【特質】</p> <p>・近景の山林の広がり</p>	<p>【視点場】</p> <p>・奈良奥山ドライブウェイは、1955年10月22日供用開始された一般自動車道。若草山側は新若草山自動車道、高円山側は高円山ドライブウェイとも呼ばれる。高円山ドライブウェイ部分はかつては万葉ドライブウェイと呼ばれていた時期もあった。</p> <p>【視対象】</p> <p>・大和平野地域は、全国的にも寡雨地帯の一つで、昔から「大和豊年米食わず」と言われてきた。かつては平野一円に分布する数千個のため池により用水を確保してきたが、現在は吉野川分水により用水確保が可能となった。</p>	<p>【視対象】</p> <p>・大和平野のなかには大きな河川がみられず、輸送の不便さや常に水不足であった平城京を想起できる。</p>			<p>【視対象】</p> <p>・奈良盆地(大和平野)は、「疏水百選」に選定されている。</p>	
009	奈良町からの興福寺五重塔への眺望	<p>・近景の奈良町の町並みの背後に興福寺五重塔を望む。</p> <p>・道路が興福寺五重塔へのビスタをつくりだしている場合は、アイストップとして象徴的に見えるが、その他多くの区域では、町家の間や空地などから垣間見える程度である。</p> <p>【特質】</p> <p>・奈良町の歴史的な町並みや建造物</p>	<p>【視点場】</p> <p>・奈良町は、平安遷都後に東大寺、興福寺の門前郷として形成され、その後大火や兵火等により生じた空地に町家が建てられ、町が形成されていった。</p> <p>【視対象】</p> <p>・興福寺は山科の地に鎌足の死後に建てられた山階寺にはじまりといひ、藤原氏の氏寺であった。後に飛鳥に移され厩坂寺となり、平城遷都とともにいち早く新京に寺を移した。平安時代には、寺地内に多くの子院がつくられ、勢力を拡大。その後、何度も火災にあうが、その都度再建されてきた。</p> <p>・興福寺五重塔(国宝)は、天平2年(730)に興福寺の創建者藤原不比等の娘光明皇后が建立した。その後5回の被災・再建をへて、応永33年(1426)頃に再建されたものである。</p>	<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】</p> <p>・奈良町は、平安遷都後、奈良を支配した東大寺や元興寺の門前に、寺の仕事に従事するさまざまな人々が集まって形成された門前郷である。</p> <p>・興福寺の鐘の音が聞こえ、興福寺との関係のもとに発展・成熟してきた奈良町の歴史を感じられる。</p>	<p>【視点場】</p> <p>・奈良町では、中世以降、墨・筆・蚊帳・晒などの様々な産業が発展し、近世には有力な商工業都市として成熟した。現在もそれらの産業が残されている。</p> <p>・墨の香りや寺院からの線香の香りから、生活文化を感じられる。</p> <p>・奈良町には「博奕をうった神様」や「阿字万字の天狗」などの数多くの説話や伝承が残されている。</p>	<p>【視対象】</p> <p>・興福寺は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</p>	<p>【視点場】</p> <p>・奈良町地区は、平成8年度に「都市景観100選」に、ならの墨づくりは「かおり風景100選」に選定されている。</p> <p>【視対象】</p> <p>・興福寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大寺のひとつでもある。</p> <p>・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、興福寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p>	
010	奈良町からの春日山等の山並みへの眺望	<p>・近景の奈良町の町並みの背後に春日山等の山並みを望む。</p> <p>・道路が山並みへのビスタをつくりだしている場合は、山並みやアイストップとなる。その他多くの区域では、町家の間や空地などから垣間見える程度である。</p> <p>【特質】</p> <p>・奈良町の歴史的な町並みや建造物</p>	<p>【視点場】</p> <p>・奈良町は、平安遷都後に東大寺、興福寺の門前郷として形成され、その後大火や兵火等により生じた空地に町家が建てられ、町が形成されていった。</p> <p>【視対象】</p> <p>・春日山について、続日本記によると、貞和8年(841)に仁明天皇により、春日神社山内の狩獵伐木をかたく禁ずる旨が出されている。また、興福寺の記録によると、風害などのあった後の補植などの堆をみると、厳密な意味での原始林ではなく、むしろ古代からの原始的植生を保つために手入れをしてきた森林となっている。</p>	<p>【視点場 - 視対象】</p> <p>・春日山原始林は、興福寺の記録によると、風害などのあった後の補植などの堆をみると、厳密な意味での原始林ではなく、むしろ古代からの原始的植生を保つために手入れをしてきた山林となっている。</p> <p>・奈良町は、平城京の条里割りのもとに、旧元興寺境内を侵食する形で形成され発展してきた。そのもととなる平城京の条里割りは、春日山および御蓋山を基準点としたという説もある。</p>	<p>【視点場】</p> <p>・奈良町では、中世以降、墨・筆・蚊帳・晒などの様々な産業が発展し、近世には有力な商工業都市として成熟した。現在もそれらの産業が残されている。</p> <p>・墨の香りや寺院からの線香の香りから、生活文化を感じられる。</p> <p>・奈良町には「博奕をうった神様」や「阿字万字の天狗」などの数多くの説話や伝承が残されている。</p> <p>【視対象】</p> <p>・春日山の最初の山の主はツツボであり、常陸の鹿島から春日明神が移ってきたとき、細かく聞きませず三尺を貸すことを承諾してしまったため、山全体の三尺を貸すことになり、今も春日山の水々はみな地下三尺より深くは根を下していないという伝説がある。</p>	<p>【視対象】</p> <p>・春日山は、「奈良名所東山一覽之図」「大和国奈良細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</p>	<p>【視対象】</p> <p>・春日山等の山々は、万葉集にも多く詠まれている。</p> <p>10-1604「秋されば 春日の山の 黄葉見る 奈良の都の 荒るらく惜しも。(大原真人今城)</p> <p>4-584「春日山 朝立つ雲の 居ぬ日なく 見まくの欲しき 君にもあるかも。(坂上大嬢、大伴家持) など</p>	<p>【視点場】</p> <p>・奈良町地区は、平成8年度に「都市景観100選」に、ならの墨づくりは「かおり風景100選」に選定されている。</p> <p>【視対象】</p> <p>・春日山原始林は、世界遺産として多くの人々に知られている。</p> <p>・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、春日山原始林はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p>

番号	眺望景観の略称	現状課題(概要)							
		眺望景観の阻害のおそれ				眺望景観の阻害状況		眺望景観の活用状況	
		視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物の建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物が建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景の景観構成要素の適切な保全・管理がもたらめられる	視対象の保存・管理の不行き届きにより、視対象の質が低下するおそれがある	既に視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物がみられる	既に視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物などがみられる	眺望景観や視点場が十分に認知されていない	視点場やアクセス道等が十分に整備されていない
006	奈良奥山ドライブウェイからの東大寺大仏殿への眺望景観	・視対象の前景は歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区、名勝奈良公園の区域として保存が図られている。 (・視対象への眺望の前景に映りこむ高さ・規模の都市公園施設の建設は行わないことが求められる。)	・視対象の前景は歴史的風土特別保存地区及、第一種風致地区、名勝奈良公園の区域として保存が図られている。 (・都市公園施設の整備等の際は、形態・意匠等への配慮が求められる。)	・視対象の前景の樹林は、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区であり、保存が図られている。	・東大寺大仏殿は、国宝に指定され、保護が図られている。	・特になし	・特になし	・公募により推薦された眺望景観である。また、入江泰吉の写真でも有名であり、冊子「奈良市の都市計画2005」など様々な場面で使用される眺望のひとつであり、十分に認知されていると考えられる。	・視点場としての整備はされていない。
007	白毫寺からの奈良市街地への眺望景観	・視対象の前景は歴史的風土保存区域、第三種風致地区、第一種中高層住居専用地域、15m高度地区であり、15mが建てられることで眺望の変容のおそれがある。 (高さ規制の必要性の検討が求められる)	・視対象の前景に、近隣の市街地が映り込む場合、屋根並みの形成など、形態・意匠等の規制・誘導が求められる。	・視対象の前景の樹林は、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区であり、保存が図られている。	・低層の市街地の広がり、農地の広がり等の保全が求められる。	・特になし	・特になし	・公募により推薦された眺望景観である。白毫寺も奈良盆地を一望できる寺としての情報発信に努めており、十分に認知されているといえる。	・ベンチ等を設置するなど、視点場として整備されている。
008	奈良奥山ドライブウェイ展望所からの奈良盆地への眺望景観	・視対象の前景の樹林は、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区であり、保存が図られている。	・視対象の前景の樹林は、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区であり、保存が図られている。	・視対象の前景の樹林は、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区であり、保存が図られている。	・市街地の間にみられる農地の広がり等の保全が求められる。	・特になし	・特になし	・奈良の景観宝地図にあげられている。	・案内板を設置するなど、視点場として整備されている。
009	奈良町からの興福寺五重塔への眺望景観	・視対象の前景である奈良町のうち、奈良町歴史的景観形成重点地区では、前面道路境界より奥行10mまでは高さ8m以下、10m以遠においては高さ15m以下とされている。猿沢池付近から東部は、20m高度地区の区域もあるが、歴史的風土保存区域、第5種風致地区に指定されている。 (・町並み形成の考え方に基づく現行基準で眺望に影響がないが、検討が求められる。)	・現在も、奈良町歴史的景観形成重点地区として、視点場、近景の保全・形成が図られている。	・現在も、奈良町歴史的景観形成重点地区として、視点場、近景の保全・形成が図られている。	・興福寺五重塔は、国宝に指定され、保護が図られている。	・一部区間で電線類の地中化が実施されたが、電線類を地中化していない区域では、視界に電線類が映り込む。 ・町並みの連続のなかで、興福寺五重塔が見える場所と見えない場所はある。奈良町からの興福寺五重塔の見え方(必ず見えるべき場所の設定など)についての検討が求められる。 ・建物の屋上にある高架水槽、塔屋が、視界に映り込む。	・一部奈良町の町並みに不調和な建築物等が、眺望景観の質を低下させる。	・公募により推薦された眺望景観である。奈良町から興福寺五重塔が見えることは多くの人が知っており、電線類を地中化したことも注目され眺望景観であり、多くの人に認知されていると考えられる。 ・奈良町や興福寺それぞれは有名であるが、その関係性や奈良町から興福寺五重塔への眺望、その意味などはより積極的に情報発信していくことが求められる。	・電線類が地中化されるなど、視点場としての整備は進められている。 ・まちなかからの眺望であり、ゆっくりと眺望を享受できる場としての整備はされていない。
010	奈良町からの春日山等の山並みへの眺望景観	・視対象の前景である奈良町のうち、奈良町歴史的景観形成重点地区では、前面道路境界より奥行10mまでは高さ8m以下、10m以遠においては高さ15m以下とされている。猿沢池付近から東部は、20m高度地区の区域もあるが、歴史的風土保存区域、第5種風致地区に指定されている。 (・町並み形成の考え方に基づく現行基準で眺望に影響がないが、検討が求められる。)	・現在も、奈良町歴史的景観形成重点地区として、視点場、近景の保全・形成が図られている。	・現在も、奈良町歴史的景観形成重点地区として、視点場、近景の保全・形成が図られている。	・風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。	・電線類を地中化していない区域では、視界に電線類が映り込む。 ・町並みの連続のなかで、山並みが見える場所と見えない場所はある。奈良町からの山並みの見え方についての検討が求められる。	・一部奈良町の町並みに不調和な建築物等が、眺望景観の質を低下させる。	・公募により推薦された眺望景観である。奈良町から春日山が見えることは多くの人が知っているが、それを眺望景観として意識はしていない可能性が高い。 ・奈良町や春日山や若草山などの山々はそれぞれは有名であるが、その関係性や奈良町から山並みへの眺望、その意味などはより積極的に情報発信していくことが求められる。	・まちなかからの眺望であり、ゆっくりと眺望を享受できる場としての整備はされていない。

番号	眺望景観写真	視点場	視対象	眺望空間(主要な構成要素)			抽出根拠			類型					
				近景	中景	遠景	資料・委員	公募	アンケート						
011		荒池池畔	[東側] 春日山 / 御蓋山 [西側] 興福寺五重塔	[東側] 荒池 [西側] 荒池 / 民家やホテル等	[東側] 樹林 [西側] 樹林 / 興福寺五重塔	[東側] 春日山 / 御蓋山 [西側] (空)			-	-	-	-	-	-	-
		知事公舎前道路	若草山 / 依水園	塀 / 樹木	依水園の樹林	若草山	-		-	-	-	-	-	-	-
013		一般道路	戒壇院	塀 / 樹木	塀 / 樹木	戒壇院	-		-	-	-	-	-	-	-
014		春日野園地 浮雲園地	[東側] 若草山 [西側] 東大寺大仏殿及び南大門	園地 / 芝	樹林	若草山			-	-	-	-	-	-	-
015		鶯池池畔	浮見堂	鶯池	浮見堂 / 樹林	春日山 御蓋山			-	-	-	-	-	-	-

番号	眺望景観の略称	奈良市らしさについて					情報としての景観特性	
		目に見える景観特性		心で感じる景観特性		観光情報	文人・歌人等の評価	インベントリー
		可視現状	歴史的背景	眺望景観の構成要素の関係	人々の活動や伝説など			
011	荒池池畔からの興福寺五重塔、春日山及び御蓋山への眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路を挟んで東西方向に広がりのあるパノラマ景を享受できる。</li> <li>東側は、御笠山の全容が間近に眺められ、背後の春日山との境界が明確に確認できる。また、荒池・園地・樹林地・山地とが一体となった奥行きのある景観が形成されている。</li> <li>西側は、近景に荒池の水面が広がり、水面越しの樹林地のなかからそびえる興福寺五重塔を望め、背後の遠景には靑空が広がり、興福寺五重塔がより一層際立って見える。サクラの咲く時期はより一層美しく見える。</li> <li>【特質】</li> <li>水面と樹林・山林の広がり</li> </ul>	<p>【視点場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>荒池は、天正17年(1589)に大和太納言豊臣秀長が奈良代官井上源五に命じて、奈良中の入夫一円惣出により掘削されたともいわれる。江戸期には一時荒廃していたらしく、奈良町絵図には描かれていない。現在の荒池は、明治16年(1883)の大干ばつを受け、明治23年に三条村と大森村の用水池として再築されたものである。</li> <li>【視対象】</li> <li>興福寺五重塔(国宝)は、天平2年(730)に興福寺の創建者藤原不比等の娘光明皇后が建立した。その後5回の被災・再建をへて、応永33年(1426)頃に再建されたものである。</li> <li>荒池東側では、かつて対岸に民家が数軒建ち並んでいたが、現在は撤去され、荒池園地として整備が行われた。現在はボートも浮かべられ、観光地のひとつとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点場 - 視対象】</li> <li>荒池は春日山より流下する率川を、せき止めて築堤したものである。</li> </ul>	<p>【視点場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>奈良ホテルの東に、荒池子安の地藏尊という石地藏が小堂に安置されている。この地藏には、伝説があり、昔、堂守の老婆が、夜中に目を覚ますと、お堂の中が騒がしく、堂内を覗いてみると、地藏尊が白装束で白馬に跨りお産の手伝いに出かけていった。翌朝地藏尊は、全身汗びっしょりとなっており、それから、安産を祈るものが増え、出産のときには、いつも佛体がぬれるといわれている。</li> <li>【視対象】</li> <li>春日山の最初の山の主はツンボであり、常陸の鹿島から春日明神が移ってきたとき、細かく聞きもせず三尺を貸すことを承諾してしまったため、山全体の三尺を貸すことになり、今も春日山の木々はみな地下三尺より深くは根を下していないという伝説がある。</li> </ul>	<p>【視点場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>荒池は、名所案内記「奈良御案内」に紹介されている。</li> <li>【視対象】</li> <li>興福寺は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> <li>春日山は、「奈良名所東山一覽之図」「大和国奈良細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> </ul>	<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>写真家入江泰吉の作品「荒池」は、荒池の水面越しに、遠方の御蓋山及び春日山を望むものである。</li> </ul>	<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興福寺及び春日山原始林、世界遺産として多くの人々に知られている。また、興福寺は南都七大寺のひとつでもある。</li> <li>奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、興福寺及び春日山原始林はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</li> </ul>
012	知事公舎前道路から依水園及び若草山への眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>知事公舎や官舎の白塙や庭木が作りだす軸線の先に依水園の樹林や若草山がアイストップとなる。</li> <li>【特質】</li> <li>白塙や庭木の連なり</li> </ul>	<p>【視点場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大正11年(1922)築の奈良県知事公舎は、昭和26年(1951)に昭和天皇が日米講和条約と日米安全保障条約の批准書に署名・認証した場所としても知られる。「(仮称)ポスト1300年祭構想」では、奈良公園エントランスエリアとして、史料や古地図、文献資料を蓄積・公開する資料館としての活用が示されており、知事公舎前道路は「(仮称)なら文芸の道」に位置づけられている。</li> <li>【視対象】</li> <li>依水園は、前園と後園の2つの築山泉水庭を水流でつなぐ庭園であり、前園は延宝年間に晒業者清須美氏の別業三秀園の遺構を整備したもので、後園は明治32年(1899)に富商関藤次郎の時に作庭されたものである。</li> <li>若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。山頂には前方後円墳鷲塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視対象 - 視対象】</li> <li>依水園の後園は、中心建築氷心亭から池を越えて東大寺南大門と若草山・春日山・御蓋山の三山をとり入れた借景庭園として著名である。</li> </ul>	<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつ以下がある。</li> <li>「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」</li> </ul>	<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若草山は、「奈良名所東山一覽之図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> </ul>	<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。</li> <li>「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務卿親王「夫木抄」)</li> <li>「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」)</li> </ul>	<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。</li> <li>若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。</li> </ul>
013	一般道路から東大寺戒壇院への眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>瓦を載せた白色の土壁、庭木の連なりが、軸線をつくり出し、アイストップとなる戒壇院が象徴的に映る。</li> <li>【特質】</li> <li>白塙や庭木の連なり</li> </ul>	<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>天平勝宝6年(754)、聖武上皇は光明皇太后らとともに唐から渡来した鑑真から戒を授かり、翌年、日本初の正式な授戒の場として戒壇院を建立した。戒壇堂・講堂・僧坊・迴廊などを備えていたが、江戸時代までに3度火災で焼失、戒壇堂と千手堂だけが復興された。</li> </ul>		<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東大寺は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> </ul>	<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和辻哲郎は大正6年(1917)5月に戒壇院を訪れており、著書「古寺巡礼」では、「堂の中に入って歩み入ると、まづそのガランとした陰鬱な空間の感じについて、ひどいほろりだという嘆声をつい洩らしたくなる。…このガランとした壇上の四隅に埃にまみれて四天王が立っている。しかも空前絶後と称せられる尊い四天王が」と記している。現在はいきれいに掃き清められているが、当時の状況を思い浮かべることができる。</li> </ul>	<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東大寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大寺のひとつである。</li> <li>奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</li> </ul>	
014	春日野園地及び浮雲園地から若草山、東大寺大仏殿、東大寺南大門への眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>春日野園地から若草山を望む眺望では、園地整備された緩傾斜地形の芝地により、中景の樹林地及び遠景の若草山、春日山との一体的な自然豊かな広がりのある景観となっている。</li> <li>春日野園地から東大寺境内を望む眺望では、近景の芝地の広がりパノラマ景をつくりだし、その先に東大寺境内の樹林が広がる。帯状に広がる樹林の上に東大寺大仏殿及び南大門の大屋根が突出しており、自然と歴史文化遺産が一体となった景観となっている。</li> <li>浮雲園地から若草山、春日山を望む眺望では、中景に若草山山麓の樹林と興公会堂の大屋根が連なり、近景の芝地には緩やかな曲線を描く園路が描かれており、豊かな自然と園地整備による近代技術とが融合した景観となっている。</li> <li>【特質】</li> <li>パノラマ景をつくりだす芝地の広がりと周囲を取り囲む樹林・山林</li> </ul>	<p>【視点場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春日野一体は、かつては民地であったため、草地が広がり、周囲には民家が建ち並んでいた。その後、春日野運動場・グラウンドとして整備され、現在は、春日野一体は、春日野グラウンドの撤去や園地整備により、前面が緩傾斜地形の芝地として整備されている。</li> <li>【視対象】</li> <li>東大寺大仏殿は、正式には東大寺金堂という。天平宝字2年(758)に完成後、治承4年(1184)の平重衡などの南都焼討、永祿10年(1567)三好・松永の戦いの2度にわたり焼失したが、公慶上人の尽力や徳川綱吉の奇逢などにより、元禄4年(1691)に現在の大仏殿が完成、宝永6年(1709)に落慶した。現在でも世界最大級の木造建築である。</li> <li>若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。山頂には前方後円墳鷲塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。</li> </ul>		<p>【視点場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春日野園地及び浮雲園地は、広大な草原、マツやアセビなどの多くの木々、池や小川や湿地を交えた園地であり、変化に富んだ豊かな自然環境が多量の生物の良好な生活環境となっている。わが国有数の虫の声を聞く場ともなっている。</li> <li>【視対象】</li> <li>若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつ以下がある。</li> <li>「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」</li> </ul>	<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若草山は、「奈良名所東山一覽之図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> <li>東大寺大仏殿は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名勝案内図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</li> </ul>	<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。</li> <li>「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務卿親王「夫木抄」)</li> <li>「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」)</li> <li>東大寺大仏殿については、和辻哲雄が「古都巡礼」のなかで以下のように表現している。</li> <li>「大仏殿の屋根は空と同じ蒼い色で、ただこころもち錆がある。それが腫るに、空に融け入るように、ふうわりと浮かんでいる。その両端の鴟尾のほのかに、実にほのかに、淡い金色を放っているのが、拝みたいほどありがたく感じられた。」</li> </ul>	<p>【視点場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>春日野園地、浮雲園地、若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。</li> <li>【視対象】</li> <li>東大寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大寺のひとつである。</li> <li>奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</li> <li>若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。</li> </ul>
015	鷲池池畔から浮見堂への眺望	<ul style="list-style-type: none"> <li>近景には鷲池の水面が広がり、そのなかに視対象となる浮見堂が浮かぶ。背後には春日大社の社叢が広がり、その奥に春日山を望むことができる。</li> <li>【特質】</li> <li>水面や樹林等の自然のなかに溶け込む浮見堂</li> </ul>	<p>【視点場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鷲池は明治時代に貯水池として築造されたものであるが、大正5年(1916)に檜皮葺きの六角形の堂である浮見堂が休息所として建てられ観光名所となった。平成3～6年に修復された。琵琶湖の堅田の浮御堂に因んでいる。</li> </ul>			<p>【視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>尾崎一雄の「馬酔木」のなかで、生活に行き詰まり、妻との不和に苦しむ一雄が逃げるようになら下やってきて、浮見堂へ入っている。</li> </ul>	<p>【視点場 - 視対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鷲池、浮見堂を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。</li> </ul>	



番号	眺望景観の略称	現状課題(概要)							
		眺望景観の阻害のおそれ				眺望景観の阻害状況		眺望景観の活用状況	
		視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物の建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物が建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景の景観構成要素の適切な保全・管理がもてめられる	視対象の保存・管理の不行き届きにより、視対象の質が低下するおそれがある	既に視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物がみられる	既に視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物などがみられる	眺望景観や視点場が十分に認知されていない	視点場やアクセス道等が十分に整備されていない
011	荒池池畔からの興福寺五重塔、春日山及び御蓋山への眺望	【東側】 ・視対象の前景には水面が広がるとともに、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区、名勝奈良公園及び史跡春日大社境内の区域として保存が図られている。 【西側】 ・荒池付近は歴史的風土特別保存地区・第一種風致地区として保存が図られている。 ・視対象の前景には、市街化調整区域・歴史的風土保存区域・第五種風致地区の区域があり、高さ制限の必要性がないか、検討が求められる。	【東側】 ・視対象の前景には水面が広がるとともに、歴史的風土特別保存地区及、第一種風致地区、名勝奈良公園及び史跡春日大社境内の区域として保存が図られている。 【西側】 ・荒池付近は歴史的風土特別保存地区・第一種風致地区として保存が図られている。 ・視対象の前景には、市街化調整区域・歴史的風土保存区域・第五種風致地区の区域があり、建築物等の形態・意匠等の規制・誘導の必要性がないか、検討が求められる。	【東側】 ・視対象の前景の樹林は、名勝・史跡及び都市公園として保存が図られている。 【西側】 ・歴史的風土保存区域・歴史的風土特別保存地区等により保存・保全が図られている。	【東側】 ・春日山及び御笠山を含む山林は、風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 (・山林の適切な管理が求められる。) 【西側】 ・興福寺五重塔は、国宝に指定され、保護が図られている。	【東側】 ・特になし 【西側】 ・建物の屋上にある高架水槽、塔屋が、視界に映り込む。	【東側】 ・特になし 【西側】 ・特になし	【東側】 ・奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。奈良の景観宝地図にもあげられている。公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されていると考えられる。 【西側】 ・公募により推薦された眺望景観である。	・視点場としての整備は行われていない。
012	知事公舎前道路から依水園及び若草山への眺望	・史跡東大寺旧境内、名勝奈良公園として保護が図られている。	・史跡東大寺旧境内、名勝奈良公園として保護が図られている。	・史跡東大寺旧境内、名勝奈良公園として保護が図られている。	・若草山は、名勝、風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。	・特になし	・特になし	・公募により推薦された眺望景観である。	・視点場としての整備は行われていない。
013	一般道路から東大寺戒壇院への眺望	・史跡東大寺旧境内として保護が図られている。	・史跡東大寺旧境内として保護が図られている。	・史跡東大寺旧境内として保護が図られている。	・戒壇院戒壇堂は県文化財に指定され、保護が図られている。	・視界に電線類が映り込む。	・特になし	・公募により推薦された眺望景観である。	・視点場としての整備は行われていない。
014	春日野園地及び浮雲園地から若草山、東大寺大仏殿、東大寺南大門への眺望	・史跡東大寺旧境内、名勝奈良公園として保護が図られている。	・史跡東大寺旧境内、名勝奈良公園として保護が図られている。	・史跡東大寺旧境内、名勝奈良公園として保護が図られている。	・若草山は、名勝、風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。 ・東大寺大仏殿・南大門は国宝に指定され、保護が図られている。	・特になし	・特になし	・観光客アンケートであげられた眺望景観である。	・奈良公園区域内であり、多くの人が自由に、また安全に眺望景観を享受できる場となっており、特段の整備は求められない。
015	鷺池池畔から浮見堂への眺望	・名勝奈良公園、史跡春日大社境内として保護が図られている。	・名勝奈良公園、史跡春日大社境内として保護が図られている。	・名勝奈良公園、史跡春日大社境内として保護が図られている。	・名勝奈良公園の区域内に位置し、保護が図られている。	・特になし	・特になし	・奈良公園内に位置しており、浮見堂ができて以降、観光化された場所であるため、多くの人が認知していると考えられる。	・視点場としての整備はされていない。

番号	眺望景観写真	視点場	視対象	眺望空間(主要な構成要素)			抽出根拠			類型				
				近景	中景	遠景	資料・委員	公募	アンケート					
016		猿沢池池畔	興福寺五重塔及び南円堂	猿沢池	興福寺五重塔 / 興福寺南円堂 / 樹林	(空)	-	-	-	-	-	-	-	-
017		三条通	春日大社一の鳥居	樹林 / 塀 / 柵	樹林 / 塀 / 柵	春日大社一の鳥居 / 春日山 / 御蓋山	-	-	-	-	-	-	-	-
018		国道369号	若草山	街路樹 / 沿道建築物	街路樹 / 沿道建築物	若草山	-	-	-	-	-	-	-	-
019		県道754号	東大寺大仏殿	山林 / 街路樹	山林 / 街路樹	東大寺大仏殿	-	-	-	-	-	-	-	-
020		若草中学校校門～鴻ノ池(西安の森)付近	東大寺大仏殿 / 若草山	奈良市街地	東大寺大仏殿 / 樹林	東大寺大仏殿 / 若草山等の山並み	-	-	-	-	-	-	-	-

番号	眺望景観の略称	奈良らしさについて						
		目に見える景観特性		心で感じる景観特性		情報としての景観特性		
		可視現状	歴史的背景	眺望景観の構成要素の関係	人々の活動や伝説など	観光情報	文人・歌人等の評価	インベントリー
016	猿沢池池畔から興福寺五重塔・南円堂への眺望	・眺望空間は、池、樹林で構成され、猿沢池の水面の広がり、パノラマ景観をつくりだす。 ・猿沢池には亀の甲羅干し棚が設置され、また池端にはフットライトおよび案内碑の他、一部柳が植栽されている。広がりのある猿沢池の水面と池に生息する亀が甲羅干しをしており、歴史と自然に囲まれたのどかな空間となっている。 【特質】 ・見え隠れをつくりだし、空間の奥行きを感じさせる樹林の広がり	【視点場】 ・興福寺流記、所引の「宝字記」には「南花園四坊・在池一堤」と記されており、興福寺本来の寺地とは別に三条大路を挟んで左京4条7坊の北4町に興福寺の花園があり、仏に供える花が栽培されていたこと、花園の中に池が存在していたことが分かる。また、同書所引の「太平記」には「佐努作波池」と見え、すでに天平期には当池が存在していたことが分かる。 【視対象】 ・興福寺五重塔(国宝)は、天平2年(730)に興福寺の創建者藤原不比等の娘光明皇后が建立した。その後5回の被災・再建をへて、応永33年(1426)頃に再建されたものである。 ・南円堂(重要文化財)は、西国三十三所観音霊場の第九番札所である。弘仁4年(813)に藤原冬嗣が父内麻呂の冥福を願って建立した。創建以来4度目の建物で、寛政元年(1789)頃に再建されたものである。	【視点場 - 視対象】 ・かつて、水面越しには興福寺境内の堂塔を望むことができた。興福寺は南都七大大寺の中で最も奈良町とのつながりをもちながら発展した寺であり、かつての奈良の人々は、この眺望景観を眺めることで、興福寺とともに発展してきたまちであることを、現在よりも強く認識していたと考えられる。 ・興福寺の放生池である。興福寺が4月に行う放生会は、捕えた生き物を逃がして供養するものであり、現在の猿沢池では多くの亀が甲羅を干している風景がみられる。	【視点場】 ・猿沢池には、天皇の寵愛が衰えてきたのを嘆き猿沢池に身を投じた「采女の伝説」や宇治拾遺物語の「竜伝説」など、数多くの伝説が残されている。池畔の衣掛柳や采女神社、中秋の名月の夜に開催される采女祭りなど、現在も伝説と一体となった景観の奥行きを感じられる。 ・猿沢池七不思議 「澄まず、濁らず、出ず、入らず、蛙はわかず、藻は生えず、魚が七分に水三分。(猿沢池の水は、決して澄むことなくまたひどく濁ることもない。水が流入する川はなくまた流出する川もないのに、常に一定の水量を保っている。亀はたくさんいるが、なぜか蛙はいない。なぜか藻も生えない。毎年多くの魚が放たれているので増えるいっぽうであるにもかかわらず、魚であふれる様子がない。水より魚の方が多くてもおかしくないような池。)	【視点場 - 視対象】 ・猿沢池、興福寺五重塔及び南円堂は、「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」「奈良御案内」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。	【視点場】 ・猿沢池の采女の説話について、「大和物語」150段には、柿本人麿と采女を邪険にされた帝が哀悼歌を詠っている。また、清少納言も「枕草子」36段に采女について記している。また、謡曲「采女」の題材ともなっている。 「我妹子が寝くたれ髪を 猿沢の池の玉藻と 見るぞかなしき。(人麿) 「猿沢の池もつらしな 我妹子が 玉藻かつかば 水もひなまし。(帝) 「猿沢の池は、采女の身投げたるをきこしめて、行幸などおりけむこそ、いみじうめでたけれ。「寝くたれ髪を」と、人丸が詠みけむほどなど思ふに、言ふもおろかなり。」(「枕草子」36池は、清少納言) ・猿沢池には竜が出る」という「宇治拾遺物語」の話をもとに芥川龍之介が小説「龍」を著している。	【視点場】 ・南都八景のひとつに「猿沢池の月」があげられている。 【視対象】 ・興福寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大大寺のひとつでもある。 ・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、興福寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。
017	三条通(東側区間)から春日大社一の鳥居への眺望	・興福寺境内の樹林など、沿道の樹林が連なり、緑の軸を形成している。朱塗りの春日大社本社一の鳥居と背後の春日山等の山並みがアイストップとなる。 【特質】 ・軸線をつくりだす緑豊かな沿道の樹林	【視点場】 ・平城京の三条大路を継承しており、平城京時代には幅員約24mであった、道幅は狭くなったものの、そのままの位置で1300年もの長い間継承されてきた。「奈良曝」には「たる井町...此通西までを三条通と云、大坂よりの海道なり」と記されている。明治26年(1892)、大阪鉄道(現関西本線)の開通に伴い、道幅が拡張され、昭和8年(1933)には、「春日一鳥居三条線」と言う名称で春日一鳥居から三条町までの延長2270m、幅員16m、2車線で都市計画決定されている。 【視対象】 ・春日大社一の鳥居は、平安後期、寛永11年(1638年)の創建である。	【視点場 - 視対象】 ・三条通りは春日大社の参道に接続しており、御蓋山がその延長上にあたる。また、三条通りは西の京外で暗峠街道に接続しており、西の白虎である生駒山と東の青竜である御蓋山を結ぶ道となっている。そのため、春日山および御蓋山が平城京の奈良割りを決める基準点となったという説もある。 ・春日大社一の鳥居は、三条通との境界に当たるが、古くは春日大社と興福寺旧境内との境に立つ大鳥居であった。	【視対象】 ・3月の春日祭や12月の春日宮おん祭の際には「立櫛」という大きな櫛が立てられている。 【視点場】 ・三条通は、春日宮おん祭のお渡式のルートとなっている。	【視点場】 ・三条通は「奈良御案内」「奈良名勝案内図」において、観光ルートとして示されている。	【視対象】 ・春日大社本社一の鳥居は、長い間、氣比神宮と巖島神社の木造大鳥居に並び「三大木造大鳥居」の一つとされてきた。	
018	大宮通りから若草山への眺望	・沿道の官庁舎をはじめとした中層建築と街路樹が若草山への軸線をつくりだす。 【特質】 ・軸線をつくりだす沿道の建築物や街路樹	【視点場】 ・かつての平城京の二条大路と三条大路の間に位置する大宮通り(国道369号線)は、阪奈道路と接続していた三条通りの渋滞を解消するため、また、大阪万国博覧会開催に向けた近鉄奈良線地下化事業とリンクして、登大路の拡張及び大宮道路建設が計画され、昭和44年に開通した。 【視対象】 ・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこれり我もこれり」と歌ったこと由来するとも言われている。元々は樹木の茂った山であったあらし(東大寺山堺四至図)、この山をめぐる東大寺と興福寺の寺領争いの解決のために山上の樹木を焼き払って境界を明確にしたことから禿山になったと言われる。山頂には前方後円墳鷲塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。	【視対象】 ・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつに以下がある。 「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」	【視対象】 ・若草山は、「奈良名所東山一覽之図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。	【視対象】 ・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことからの以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く。(中務卿親王「夫木抄」) 「すたつとも み糸ぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも見るかな。」(宇津保物語)	【視対象】 ・若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。 ・若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。	
019	県道754号から東大寺大仏殿への眺望	・沿道の街路樹や樹林が東大寺大仏殿への軸線をつくりだす。高位からの見下ろしとなる。 【特質】 ・軸線をつくりだす沿道の建築物や街路樹・樹林	【視対象】 ・東大寺大仏殿は、正式には東大寺金堂という。天平宝字2年(758)に完成後、治承4年(1181)の平重衡などの南都焼討によって焼失。建久元年(1190)の再建時の落慶法要には源頼朝なども列席した。永祿10年(1567)三好・松永の戦いによって再度焼失したが、公慶上人の尽力や徳川綱吉の寄進などにより、元禄4年(1691)に完成。宝永6年(1709)に落慶した。これが現在の東大寺大仏殿であり、現在でも世界最大級の木造建築である。 ・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。山頂には前方後円墳鷲塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。	【視対象】 ・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつに以下がある。 「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」	【視対象】 ・東大寺大仏殿は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名勝案内図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。	【視対象】 ・東大寺大仏殿については、和辻哲雄が「古都巡礼」のなかで以下のように表現している。 「大仏殿の屋根は空と同じ色で、ただこころもち錆がある。それが麗るに、空に融け入るように、ふうわりと浮かんでいる。その両端の鴟尾のほのかに、実にほのかに、淡い金色を放っているのが、拝みたいほどありがたく感じられた。」	【視対象】 ・東大寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大大寺のひとつである。 ・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。	
020	若草中学校校門・鴻ノ池付近から東大寺大仏殿、若草山等への眺望	・視点場が高台に位置していることから、近景に広がる市街地の屋根波の遠方に若草山と東大寺大仏殿をセットで望むことができる。若草山の下には東大寺二月堂が見え、若草山から連なる御蓋山、春日山、高円山などの山並み、南側には東大寺南大門や興福寺五重塔も望むことができる。 【特質】 ・低層市街地の瓦屋根の屋根波の広がりや東大寺大仏殿を浮かび上げさせる周囲の樹林	【視対象】 ・東大寺大仏殿は、正式には東大寺金堂という。天平宝字2年(758)に完成後、治承4年(1181)の平重衡などの南都焼討によって焼失。建久元年(1190)の再建時の落慶法要には源頼朝なども列席した。永祿10年(1567)三好・松永の戦いによって再度焼失したが、公慶上人の尽力や徳川綱吉の寄進などにより、元禄4年(1691)に完成。宝永6年(1709)に落慶した。これが現在の東大寺大仏殿であり、現在でも世界最大級の木造建築である。 ・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。山頂には前方後円墳鷲塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。	【視対象】 ・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつに以下がある。 「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」	【視対象】 ・東大寺大仏殿は、「大和国細見図」「いんばんや絵図」「奈良名勝案内図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。	【視対象】 ・東大寺大仏殿については、和辻哲雄が「古都巡礼」のなかで以下のように表現している。 「大仏殿の屋根は空と同じ色で、ただこころもち錆がある。それが麗るに、空に融け入るように、ふうわりと浮かんでいる。その両端の鴟尾のほのかに、実にほのかに、淡い金色を放っているのが、拝みたいほどありがたく感じられた。」	【視対象】 ・東大寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大大寺のひとつである。 ・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。 ・若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。 ・若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。	

番号	眺望景観の略称	現状課題(概要)							
		眺望景観の阻害のおそれ			眺望景観の阻害状況			眺望景観の活用状況	
		視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物の建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物が建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景の景観構成要素の適切な保全・管理がもたらされる	視対象の保存・管理の不行き届きにより、視対象の質が低下するおそれがある	既に視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物がみられる	既に視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物などがみられる	眺望景観や視点場が十分に認知されていない	視点場やアクセス道等が十分に整備されていない
016	猿沢池池畔から興福寺五重塔・南円堂への眺望	・猿沢池は名勝奈良公園であり、興福寺旧境内は国史跡であるため、視対象の前景に視線を遮る建築物等が建設されるおそれはない。また、視対象が視点場より高位に位置するため、現行高度制限内であれば、視対象の背景に建築物等が映り込むおそれはない。(要検証)	・猿沢池は名勝奈良公園として保護が図られている。 ・猿沢池東西池畔は歴史的風土保存区域、第5種風致地区に指定され、一定の保全は図られている。形態意匠等の適切な誘導が求められる。	・名勝奈良公園、史跡興福寺旧境内として保護が図られている。 (・樹林の適切な管理が求められる。)	・興福寺五重塔は国宝、南円堂は重要文化財に指定され、保護が図られている。	(・樹林によりかつてよりも興福寺が見えなくなっている。適切な見え方の度合い等の検討が求められる。)	・特になし	・奈良の景観宝地図にあげられている。	・視点場としてベンチや案内板なども整備されている。
017	三条通(東側区間)から春日大社一の鳥居への眺望	・景観重要公共施設に設定されているため、視線上一の鳥居への眺望を阻害するものが建設されるおそれは少ない。 ・眺望の視点から道路標識や案内板などの設置方法に配慮することが求められる。	・東側の沿道は史跡興福寺旧境内や名勝奈良公園、歴史的風土保存区域、風致地区等により保全されている。 ・三条通は景観形成重点地区として景観誘導が図られており、地区計画も策定されている。しかし、現状の景観は雑然としており、奈良らしさが感じられない。	・名勝奈良公園、史跡興福寺旧境内として保護が図られている。	・一の鳥居は重要文化財に指定され保護が図られている。	・電線類が視界に映り込む。	・特になし	・公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	・視点場としての整備はされていない。
018	大宮通りから若草山への眺望	・沿道は景観形成重点地区に指定されているが、東側区間の沿道の大半は商業地域、西側区域は第一種住居地域であり、大規模な建築物等が建築されるおそれがあり、屋外広告物についても高さの高いものなどが設置されるおそれがある。 ・道路を横断する道路施設等が眺望を阻害するおそれがある。	・景観形成重点地区であり、沿道の建築物や工作物の形態意匠については、一定の規制がかけられている。また、景観重要公共施設であり、道路施設の形態意匠については配慮される。	・興福寺境内の樹林は史跡興福寺旧境内として保護が計られている。これらの樹林ならびに街路樹の適切な管理が求められる。 ・一部残された町家をはじめとした歴史的な建築物等の保全により、建築物等からも奈良を感じられる空間を形成することが求められる。	・若草山は、名勝、風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。	・道路を横断する道路標識等の道路施設が視線を遮る。 ・視界に電線類が映り込む。 ・沿道の屋外広告物が稜線を分断する。	・電線や高彩度色を用いた大きな屋外広告物やまどまりのない建築物の形態意匠、老朽化が著しい照明柱などの道路付属物など、雑然とした景観となっている。	・公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	・歩道は整備されている。車道や歩道からのシークエンスであり、視点場としての整備はされていない。
019	県道754号から東大寺大仏殿への眺望	・現行の15m斜線高度地区により、東大寺大仏殿への視線を遮る高さや背後に映り込むような高さの建築物が建てられるおそれはない。 ・道路上への案内表示等の道路施設の設置にあたっては、東大寺大仏殿への眺めに十分に配慮することが求められる。	・建築物等の形態意匠について、特に制限が設けられていないため、奈良市の歴史文化と調和しない洋風の建築物等が建ち並ぶおそれがある。	・沿道の桜並木や樹林が自然豊かな軸線をつくりだし、また四季の彩りを与えているため、適切な管理を行わなければトンネル効果が失われてしまう。	・東大寺大仏殿は、国宝に指定され、保護が図られている。	・視界に電線類が映り込む。	・沿道の建築物は基本的に和風の趣あるものであるが、若干違和感のある建築物もみられる。	・公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	・歩道は整備されている。車道や歩道からのシークエンスであり、視点場としての整備はされていない。
020	若草中学校校門・鴻ノ池付近から東大寺大仏殿、若草山等への眺望	・視点場から視対象の間の眺望空間の大半は第一種住居地域、15m高度地区又は15m斜線高度地区である。視対象自体を遮る高さとはならないと予想される。(要検証)。	・建築物等の形態意匠について、特に制限が設けられていないため、視点場から視対象の間の瓦屋根の広がりや失われていくおそれがある。	・東大寺大仏殿の周囲に広がる緑豊かな樹林の適切な管理が求められる。	・若草山は、名勝、風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。	・家屋のアンテナや電線類、NHK、建物上部の塔屋が視界に映り込む。	・橙色や赤色の屋根、緩勾配のスレート葺屋根が、瓦屋根の屋根波のなかで突出して見える。	・公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。 ・多くの観光客が訪れる場所とはなっていない。観光化を目指す場合は、周囲の住宅市街地や文教施設等との関係を踏まえた上で、周辺地域に立地する歴史文化遺産と合わせた観光ルートとしての情報発信の検討が求められる。	・視点場としての整備はされていない。

番号	眺望景観写真	視点場	視対象	眺望空間(主要な構成要素)			抽出根拠			類型				
				近景	中景	遠景	資料・委員	公募	アンケート					
021		大宮橋	若草山	桜並木 / 佐保川	桜並木 / 佐保川	若草山等の山並み	-	-	-	-	-	-	-	-
022		水上池池畔	若草山	水上池	樹林 / 奈良市街地	若草山等の山並み	-	-	-	-	-	-	-	-
023		平城宮跡	若草山	平城宮跡 / 樹木	奈良市街地	若草山等の山並み	-	-	-	-	-	-	-	-
024		平城宮跡	大極殿 / 朱雀門	平城宮跡 / 樹木 / 近鉄奈良線	大極殿 / 朱雀門	奈良市街地 / 山並み	-	-	-	-	-	-	-	-
025		近鉄奈良線	平城宮跡 / 大極殿 / 朱雀門	平城宮跡 / 樹木	大極殿 / 朱雀門	奈良市街地 / 樹林	-	-	-	-	-	-	-	-

		奈良市らしさについて						
番号	眺望景観の略称	目に見える景観特性		心で感じる景観特性		情報としての景観特性		
		可視現状	歴史的背景	眺望景観の構成要素の関係	人々の活動や伝説など	観光情報	文人・歌人等の評価	インベントリー
021	大宮橋から若草山への眺望	・佐保川沿いのサクラ並木が、大宮橋から若草山への軸線を形成し、若草山を象徴的に眺めることができる。 ・河川とサクラ並木と若草山による自然豊かな景観であり、四季の移ろいが感じられる眺望景観である。 【特質】 ・佐保川の清流と軸線をつくりだす佐保川沿いのサクラ並木	【視対象】 ・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。山頂には前方後円墳鷲塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。 【眺望空間】 ・江戸時代、奈良の名奉行川路聖謨は植樹に関心深く、東大寺や興福寺の境内の桜が枯れて風致が荒れてきたのを遺憾として、春日山の麓から東大寺や興福寺も含めて高円・佐保地域(佐保川堤)まで、桜と楓の苗木を植樹したと伝えられる。佐保川堤のサクラの古木は地元で「川路桜」といわれる。近代以降は、20年程前に県が植樹を行った。 ・2本に分かれる佐保川はかつて、ひとつは平城京という左京二坊の間を、もう一つは左京三坊の間を地形に沿って蛇行して南下していた。平城京の造営により、ひとつは二坊坊間の中央を、もう一つは三坊の西よりをそれぞれ直線的に南下するように河川改修された。	【視対象 - 眺望空間】 ・佐保川は、若草山から連なる世界遺産である春日山原始林を水源としている。	【視対象】 ・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつ以下がある。 「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」 【眺望空間】 ・江戸時代からの奈良の伝統産業「奈良晒」づくりの作業には、水洗いのための清流が不可欠であり、佐保川を中心とした川沿いには晒問屋仲間が多く置かれていたという。	【視対象】 ・若草山は、「奈良名所東山一覽之図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。	【視対象】 ・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務卿親王「夫木抄」) 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」) 【眺望空間】 ・佐保川は奈良市街近くを流れることから、古来詩歌に詠まれることも多かった。 「佐保河の 小石ふみ渡り ぬばたまの 黒馬の来る夜は 年にもあらぬか」(大伴坂上郎女、万葉集) 「佐保川の 水を塞きあげて 植系し田を 刈る早飯は 独りなるべし」(上の句:尼/下の句:大伴家持、万葉集) ... 最古の連歌とされる。	【視対象】 ・若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。 ・若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。
022	水上池池畔から若草山等への眺望	・「水上池」の北側(池の中)には藪があり、鳥が多く生息している。広々とした水面と水鳥、そして背後の御陵や歌姫の森といった、のどかで静かな風景である。水上池には四季を通じて野鳥が飛来し、背後に眺める若草山から連なる山並みや人工的でない池の堤防が相まって自然豊かな景観をつくり出している。 【特質】 ・人工的でない池の堤防と水面の広がり	【視点場】 ・水上池は、現在は灌漑用水池として利用されているが、平城山の谷筋を埋止めてつくられたもので、その南堤が平城宮の北端に一致することから、造成は古代に遡ると考えられている。造成の目的が園地であったとはいえないが、結果として、松林苑の中に取り込まれた可能性が大きいとされる。 【視対象】 ・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったこと由来するとも言われている。元々は樹木の茂った山であったあらし(東大寺山堺四至図)、この山をめぐる東大寺と興福寺の寺領争いの解決のために山上の樹木を焼き払って境界を明確にしたことから禿山になったと言われる。山頂には前方後円墳鷲塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。		【視点場】 ・「日本書紀」の「和の狭城池」。「万葉集」の「咲沢」「生沢」「開沼」は「水上池」であるといわれる。 【視対象】 ・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつ以下がある。 「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」	【視対象】 ・若草山は、「奈良名所東山一覽之図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。	【視点場】 ・水上池は「万葉集」の「咲沢」「生沢」「開沼」であるといわれており、以下の歌が歌われている。 4-675「あをによし奈良の都は咲く花のほふがごとく今盛りなるかも」(中臣女部) 11-2818「かきつはた開沼の首を笠に縫ひ着む日を待つに年ぞ経にける」(不明) 【視対象】 ・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務卿親王「夫木抄」) 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」)	【視対象】 ・若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。 ・若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。
023	平城宮跡から若草山等への眺望	・近景には広大な史跡地が広がるため、遠方の若草山や春日山をはじめとした美しい山稜を望むことができる。 ・史跡周囲を取り囲む樹木が市街地の喧騒を遮り、緑豊かな眺望景観をつくりだす。一部高層建築等が突出して見える。 【特質】 ・史跡地の空間的な広がり、そのなかに点在する樹木等	【視点場】 ・平城宮は、平城京の北部中央に位置し、東西約1.3km、南北約1kmを占める。大極殿・朝堂院など多くの役所が位置したが、平安遷都後は、農地となり長い間忘れられてきた。江戸時代末に、北浦定政が実測研究によって平城宮の規模を明らかにし、明治33年(1900)奈良県技師岡野貞が大極殿跡を明らかにし、その保存を訴えた。奈良の植木商榑田嘉十郎が私財を投げうって保存運動に努め、大正11年(1922)大極殿と朝堂院の跡が史跡指定を受け、翌年国有地化された。 【視対象】 ・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。山頂には前方後円墳鷲塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。	【視点場 - 視対象】 ・平城遷都により造営された平城京の条坊は、春日山及び御蓋山を基準点として奈良割りが決められたという説がある。	【視対象】 ・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつ以下がある。 「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」	【視対象】 ・若草山は、「奈良名所東山一覽之図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。	【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・写真家江泰吉の作品でも有名である。 【視点場】 ・平城京は、万葉集にも多く詠まれている。 3-328「あをによし奈良の都は咲く花のほふがごとく今盛りなり」(小野老) 6-1048「たち変り古き都となりぬれば道の芝草長く生ひにけり」(田辺福麻呂歌集) 【視対象】 ・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務卿親王「夫木抄」) 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」)	【視点場】 ・平城宮跡は、世界遺産として多くの人々に知られている。 ・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、平城宮跡はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。 【視対象】 ・若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。 ・若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。
024	平城宮跡から大極殿、朱雀門等への眺望	・近景には広大な史跡地が広がり、そのなかに復元された大極殿、朱雀門を象徴的に眺めることができる。 ・史跡周囲を取り囲む樹木が市街地の喧騒を遮り、緑豊かな眺望景観をつくりだす。一部高層建築等が突出して見える。 【特質】 ・史跡地の空間的な広がり、そのなかに点在する樹木等	【視点場】 ・平城宮は、平城京の北部中央に位置し、東西約1.3km、南北約1kmを占める。大極殿・朝堂院などの役所が位置したが、平安遷都後は、農地となり長い間忘れられてきた。江戸時代末に、北浦定政が平城宮の規模を明らかにし、明治33年(1900)奈良県技師岡野貞が大極殿跡を明らかにし、その保存を訴えた。奈良の植木商榑田嘉十郎が私財を投げうって保存運動に努め、大正11年(1922)大極殿と朝堂院の跡が史跡指定を受け、翌年国有地化された。 【視対象】 ・740年に恭仁京、難波京、紫香楽京と遷都し745年に平城京に戻った際、別の場所に大極殿が建てられた。現在、第一次大極殿が復元されている。 ・大内裏には12の門が設けられており、朱雀門は最も重要な門であった。朱雀門は平成10年(1998)に復元され、朱雀門の向こうに羅城門へと伸びた朱雀大路を感じることができる。	【視点場 - 視対象】 ・大内裏の南門である朱雀門は「天子南面す」というように、大極殿から平城京を睥睨する最も重要な門である。	【視対象】 ・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつ以下がある。 「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」	【視点場】 ・平城宮跡は、明治12年(1879)の「奈良名所独案内全」で紹介されている。	【視対象】 ・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務卿親王「夫木抄」) 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」)	【視点場】 ・平城宮跡は、世界遺産として多くの人々に知られている。 ・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、平城宮跡はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。 【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・平城宮朱雀門と夕日の景観は、「日本の夕陽百選」に選定されている。
025	近鉄奈良線から平城宮跡、大極殿、朱雀門への眺望	・近鉄奈良線は平城宮跡の中を横切っているため、車窓からは平城宮跡の史跡地の広がり、そしてそのなかに復元された大極殿・朱雀門を象徴的に眺めることができる。 【特質】 ・史跡地の空間的な広がり、そのなかに点在する樹木等	【視点場】 ・平城宮は、平城京の北部中央に位置し、東西約1.3km、南北約1kmを占める。大極殿・朝堂院などの役所が位置したが、平安遷都後は、農地となり長い間忘れられてきた。江戸時代末に、北浦定政が平城宮の規模を明らかにし、明治33年(1900)奈良県技師岡野貞が大極殿跡を明らかにし、その保存を訴えた。奈良の植木商榑田嘉十郎が私財を投げうって保存運動に努め、大正11年(1922)大極殿と朝堂院の跡が史跡指定を受け、翌年国有地化された。 【視対象】 ・740年に恭仁京、難波京、紫香楽京と遷都し745年に平城京に戻った際、別の場所に大極殿が建てられた。現在、第一次大極殿が復元されている。 ・大内裏には12の門が設けられており、朱雀門は最も重要な門であった。朱雀門は平成10年(1998)に復元され、朱雀門の向こうに羅城門へと伸びた朱雀大路を感じることができる。	【視対象 - 視対象】 ・大内裏の南門である朱雀門は「天子南面す」というように、大極殿から平城京を睥睨する最も重要な門である。	【視対象】 ・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつ以下がある。 「かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。」	【視対象】 ・平城宮跡は、明治12年(1879)の「奈良名所独案内全」で紹介されている。	【視対象】 ・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務卿親王「夫木抄」) 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」)	【視対象】 ・平城宮跡は、世界遺産として多くの人々に知られている。 ・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、平城宮跡はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。

番号	眺望景観の略称	現状課題(概要)							
		眺望景観の阻害のおそれ			眺望景観の阻害状況			眺望景観の活用状況	
		視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物の建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物が建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景の景観構成要素の適切な保全・管理がもたらされる	視対象の保存・管理の不行き届きにより、視対象の質が低下するおそれがある	既に視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物がみられる	既に視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物などがみられる	眺望景観や視点場が十分に認知されていない	視点場やアクセス道等が十分に整備されていない
021	大宮橋から若草山への眺望	・河川上には視線を遮るような大規模な建築物や工作物が建てられるおそれはない。 ・周囲は15m高度地区及び15m斜線高度地区であり、山の稜線を分断するような建物は建てられないが、塔屋等がサクラ並木の背後に映りこむおそれがある。	・屋上広告物の色彩や形態意匠の制限を設け、眺望景観に映り込む葉袋は、色彩や形態意匠に配慮することが求められる。 ・塔屋の突出等に配慮し、周囲の自然環境や歴史文化遺産に配慮した建築物の屋並みの形成を図ることが求められる。	・自然豊かな軸線をつくりだすとともに、春には美しいサクラの帯が作りだされる河川沿いのサクラ並木の保全・管理を進めることが求められる。 ・「川路桜」などのサクラの古木の保護に努めることが求められる。	・若草山は、名勝、風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。	・河川沿いの建築物はサクラ並木によりあまり目立たないが、建物上部の塔屋が視界に映り込むものもみられる。	・河川護岸のコンクリートブロックが自然的な景観と調和しない。	・奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。	・視点場である大宮橋歩道には、立ち止まって眺望を楽しめるような場はない。
022	水上池池畔から若草山等への眺望	・水上池は歴史的風土特別保存地区・第一種風致地区として保存されている。 ・高台に位置しており、周囲に樹林が広がるため、遠景の市街地の高さ等により眺望が阻害されるおそれは少ない。	・水上池池畔は全体が歴史的風土保存区域であり、奈良市の歴史的風土と不調和な形態意匠の建築物や工作物が建てられるおそれは少ない。	・山稜が美しく見えるよう、水上池池畔の樹林の適切な管理が求められる。 ・水上池の水質の保全により、水鳥の良好な生息環境を維持していくことが求められる。	・若草山は、名勝、風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。	・特になし	・水上池東側池畔の樹林のなかに点在する建築物が周囲の樹林の緑のなかで浮き立って見える。	・奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。また、公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	・自転車専用道路となっている。視点場としての整備はされていない。
023	平城宮跡から若草山等への眺望	・視点場と視対象の間の近景には史跡地が広がり、中遠景には市街地が広がり、眺望空間のなかには、大宮通り沿道の31m高度地区やJR奈良駅周辺の40m高度地区なども見られる。制限一杯で建てられた場合、中遠景部分であるため、若草山等の稜線を分断することはないが、麓に見える興福寺五重塔が大きく隠れてしまうおそれがあり、また、現在の広がりやゆとりのある景観が建築物等の連なりによる圧迫感のある景観に変容してしまうおそれがある。 ・平城宮跡内にも施設整備が検討されており、広がりやゆとりのある眺望景観が失われるおそれがある。	・市街地は中遠景に位置するため、建築物自体の形態として阻害するようなものは少ないと考えられるが、建築物の色彩や屋上広告物の色彩が眺望景観を阻害するおそれがある。また、塔屋の突出も	・視点場となる平城京の施設整備にあたっては、史跡地の空間の広がりやの保全が求められる。	・若草山は、名勝、風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。	・奈良県庁や奈良近鉄ビル、高天ビルなど、現在も高い建築物が建てられている。そのため、場所によっては興福寺五重塔が全て隠れてしまう場所もある。	・特になし	・以前から奈良市では重要な眺望景観として位置づけられており、現行の都市計画高度地区の根拠のひとつとなっている。また、奈良市都市計画マスタープランでも重要な眺望景観としてあげられている。 ・奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。また、公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	・史跡として整備されており、今後も新たな整備が検討されている。
024	平城宮跡から大極殿、朱雀門等への眺望	・平城宮跡内の施設整備により、眺望を阻害する建築物や工作物等が建てられるおそれがある。	・平城宮跡内の施設整備については、復元として形態意匠には十分な配慮がなされると想定できる。	・視点場となる平城京の施設整備にあたっては、史跡地の空間の広がりやの保全が求められる。	・特別史跡平城宮跡の区域内として保護が図られている。	・視対象の前景には、平城宮跡内を通過する近鉄奈良線が映り込む。 ・南東方向を望む場合、背景の山並みの麓に奈良県庁や奈良近鉄ビル、高天ビルなど、現在も高い建築物が建てられている。また、北西方向には学園前の中高層の建築物群が映り込む。	・特になし	・奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。また、公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	・史跡として整備されており、今後も新たな整備が検討されている。
025	近鉄奈良線から平城宮跡、大極殿、朱雀門への眺望	・平城宮跡内の施設整備により、眺望を阻害する建築物や工作物等が建てられるおそれがある。	・平城宮跡内の施設整備については、復元として形態意匠には十分な配慮がなされると想定できる。	・視点場となる平城京の施設整備にあたっては、史跡地の空間の広がりやの保全が求められる。	・特別史跡平城宮跡の区域内として保護が図られている。	・北西方向には学園前の中高層の建築物群が映り込む。	・特になし	・奈良の景観宝地図で紹介されている。	・(電車からのシークエンスである。)

番号	眺望景観写真	視点場	視対象	眺望空間(主要な構成要素)			抽出根拠			類型				
				近景	中景	遠景	資料・委員	公募	アンケート					
026		歴史の道	垂仁天皇陵	水田	垂仁天皇陵 / 樹林 / 水田	奈良市街地 / 山並み			-	-	-	-	-	-
027		大池(勝間田池)池畔	薬師寺三重塔	勝間田池	薬師寺三重塔	若草山等の山並み / 東大寺大仏殿 / 奈良市街地			-	-	-	-	-	-
028		薬師寺境内	薬師寺の各堂塔	薬師寺境内	薬師寺の各堂塔 / 樹林	(空)			-	-	-	-	-	-
029		唐招提寺境内	唐招提寺の各堂	唐招提寺境内	唐招提寺の各堂 / 樹林	(空)			-	-	-	-	-	-
030		秋篠川堤防	薬師寺三重塔	水田	民家 / 樹林	薬師寺三重塔			-	-	-	-	-	-








		奈良らしさについて						
番号	眺望景観の略称	目に見える景観特性		心で感じる景観特性		情報としての景観特性		
		可視現状	歴史的背景	眺望景観の構成要素の関係	人々の活動や伝説など	観光情報	文人・歌人等の評価	インベントリー
026	歴史の道から垂仁天皇陵への眺望	<p>・近景の農地や堀の水面が広がりのあるパノラマ景をつくりだし、そのなかに墳丘上の緑豊かな樹林が浮かび上がる。 【特質】 ・パノラマ景をつくりだす近景の農地や堀の広がり</p>	<p>【視点場】 ・歴史の道は1972年に奈良市が定めたルートで、広大な平城京をめぐるのびる全長約27kmのハイキングコースである。 【視対象】 ・垂仁天皇は、第11代天皇であり、殉死を禁止し、墳輪を埋納するよう定めた天皇としても有名である。（『日本書紀』による） ・「古事記」に「御陵は菅原の御立野の中にあり」、「日本書紀」に「菅原伏見陵」、「続日本紀」には「柳見山陵」とあり、菅原伏見東陵「宝来山古墳」が垂仁天皇陵と考えられている。全長227mの前方後円墳で後円部径123m・高さ17.3m、前方部幅118m・高さ15.6mである。</p>	<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・垂仁天皇陵は平城京の糸屋のなかでもその形状を残しており、堀には田道間守の墓と伝わる三角形の小島が浮かぶ。</p>	<p>【視点場 - 眺望空間】 ・垂仁天皇陵の堀の中に三角形の小島があり、田道間守の墓といわれており、以下の伝説が残されている。 「垂仁天皇は、国々に池や溝を開かせ、農業を盛んにし、墳輪をつくらせて殉死をやめさせるなど、人々に優しい天皇であった。田道間守は、そのような垂仁天皇を慕い仕えていた。ある時、垂仁天皇の命を受け、常世の国へときじくのかくの木の実を探しに行くこととなった。しかし、その間に垂仁天皇は亡くなり、戻った田道間守は垂仁天皇の御陵の前で泣き叫びながら息絶えた。その霊をなくさめようと、堀の中に墓がつくられたという。」</p>	<p>【視対象】 ・垂仁天皇陵は、明治12年(1879)の「奈良名所独案内全」で紹介されている。</p>		
027	大池(勝間田池)池畔から薬師寺三重塔への眺望	<p>・近景の大池の水面が、広がりのある眺望景観をつくりだし、その向こうにそびえる薬師寺三重塔を象徴的に望むことができる。 ・遠方には若草山、春日山、御蓋山、竜王山、三輪山などの山並みを望むことができ、目を凝らせば東大寺大仏殿や興福寺五重塔も望むことができる。 【特質】 ・近景の水面の広がり、中遠景の農地や低層に抑えられた市街地の広がり</p>	<p>【視対象】 ・薬師寺は、天武天皇9年(680)、皇后(後の持統天皇)の病氣平癒を祈願して飛鳥の地に建立され、平城遷都に伴って現在地に移された。当時は社大、華麗な大伽藍が並び建ったが、幾多の災害、兵火などでそのほとんどを失った。昭和43年以降、金堂、西塔、中門、回廊、講堂が順次復元された。東塔(国宝)は創建時唯一の遺構である。金堂の本尊、薬師三尊像(国宝)はわが国仏教芸術の最高傑作に数えられている。</p>		<p>【視対象】 ・薬師寺東塔は「竜宮の塔の写し」ともいわれており、以下のような伝説が残されている。 「昔、薬師如来が天竺から渡ってきて、ある工匠に塔の建立を命じた。それから毎日塔の図を引いて苦心したがうまくいかなかった。ある夜、また薬師如来の夢のおつげがあり、竜宮城内の立派な等を見ることができた。その形を写し取ることができ、ついに塔が完成したという。」</p>	<p>【視対象】 ・薬師寺は、「大和国絵図」「奈良名所独案内全」で紹介されている。</p>	<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・写真家入江泰吉の作品でも有名である。 【視点場】 ・勝間田池については、古代の男女のたたずまいを偲ばせる歌が万葉集に詠まれている。 16-3835「勝間田の池はわれ知る 運なししか言ふ君が 願なき如し」(新田部皇子) ・薬師寺三重塔は、明治時代に薬師寺を訪れたアーネスト・フェノロサが「凍れる音楽」と表現したといわれる(出典は不明)。 ・會津八一は薬師寺について以下の歌を詠んでいる。 「すめえんのあまつをどがめころもてのひまにもずめるあきのそらかな」</p>	<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・薬師寺のある奈良西の京は、「人と自然が織りなす日本の風景百選」にあげられている。 【視対象】 ・薬師寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大寺のひとつでもある。 ・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、薬師寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p>
028	薬師寺境内から薬師寺堂塔への眺望	<p>・近景に薬師寺境内の各堂塔を望む。境内の周囲は中低木の垣根・樹林で囲まれており、外界の集落や市街地等は映りこまない。そのため、各堂塔の背景には空が広がり、このことが、境内の広がりゆとりなかで薬師寺の各堂塔の象徴性及び価値を高めている。 【特質】 ・社寺背景の空の広がり。(周囲の農地や低層市街地の広がり)</p>	<p>【視点場 - 視対象】 ・薬師寺は、天武天皇9年(680)、皇后(後の持統天皇)の病氣平癒を祈願して飛鳥の地に建立され、平城遷都に伴って現在地に移された。当時は社大、華麗な大伽藍が並び建ったが、幾多の災害、兵火などでそのほとんどを失った。昭和43年以降、金堂、西塔、中門、回廊、講堂が順次復元された。東塔(国宝)は創建時唯一の遺構である。金堂の本尊、薬師三尊像(国宝)はわが国仏教芸術の最高傑作に数えられている。</p>		<p>【視点場 - 視対象】 ・薬師寺東塔は「竜宮の塔の写し」ともいわれており、以下のような伝説が残されている。 「昔、薬師如来が天竺から渡ってきて、ある工匠に塔の建立を命じた。それから毎日塔の図を引いて苦心したがうまくいかなかった。ある夜、また薬師如来の夢のおつげがあり、竜宮城内の立派な等を見ることができた。その形を写し取ることができ、ついに塔が完成したという。」</p>	<p>【視点場 - 視対象】 ・薬師寺は、「大和国絵図」「奈良名所独案内全」で紹介されている。</p>	<p>【視点場 - 視対象】 ・薬師寺三重塔は、明治時代に薬師寺を訪れたアーネスト・フェノロサが「凍れる音楽」と表現したといわれる(出典は不明)。 ・會津八一は薬師寺について以下の歌を詠んでいる。 「すめえんのあまつをどがめころもてのひまにもずめるあきのそらかな」</p>	<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・薬師寺のある奈良西の京は、「人と自然が織りなす日本の風景百選」にあげられている。 【視対象】 ・薬師寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大寺のひとつでもある。 ・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、薬師寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p>
029	唐招提寺境内から唐招提寺堂塔への眺望	<p>・近景に唐招提寺境内の各堂を望む。境内の周囲は中高木の樹林で囲まれており、外界の集落や市街地等は映りこまない。樹林の中に各堂が配され、律宗の総本山としての神聖な空間をつくりだしている。 【特質】 ・社寺背景の空の広がり。(境内の豊かな樹林)</p>	<p>【視点場 - 視対象】 ・鑑真和上によって天平宝字3年(759)に日本で最初の戒壇がもたらされた寺。天平の香りを色濃く残す寺として名高く、エンタンスをもつ金堂、平城京唯一の建築遺構である講堂、経堂・宝蔵・鼓楼、礼堂などの堂塔が並び、金堂内の中央には、本尊の盧舎那仏坐像、右に薬師如来立像、左に千手観音立像があり、千手観音は実際に千本の手を持つ最古最大の仏像である。肖像彫刻の最高傑作といわれる鑑真和上像は御影堂に安置されている。</p>		<p>【視点場 - 視対象】 ・唐招提寺では、毎年、覚盛上人の命日である5月19日にうちわまき(中興忌梵網会)が行なわれる。うちわまきの由来は、覚盛上人が修業中に蚊にさされているのを見かねて弟子僧が蚊を叩こうとしたが、覚盛上人は弟子を制止し、「生きとしけるものはなんらかの施して支えられている。蚊に自分の血を与えるのも菩薩行である」と言ったと伝えられており、覚盛上人が亡くなった後、上人の教育を受けた法華寺の尼僧たちが「これでせめて蚊を追い払って下さい」と堂前にうちわを供え、そのうちわを仏教の教えを聞きに来た人に授けたことに由来するという。</p>	<p>【視点場 - 視対象】 ・唐招提寺は、「大和国絵図」「奈良名所独案内全」で紹介されている。</p>	<p>【視点場 - 視対象】 ・井上靖の小説「天平の甕」で広く知られるようになった。 ・唐招提寺は、亀井勝一郎が「大和古寺風物誌」で、「伽藍の文藝楽」と賞賛している。 ・會津八一は「南京新唱」(大正13年)のなかで唐招提寺のエンタンスの円柱について以下の歌を詠んでいる。 「おほえらのまるきはしらのつきがげを つちにふみつつものをこそおもへ」</p>	<p>【視点場 - 視対象】 ・唐招提寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。 ・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、唐招提寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p>
030	秋篠川堤防から薬師寺三重塔への眺望	<p>・近景には農地と民家が広がり、その奥に広がる樹林地の向こうに薬師寺三重塔が突出して見える。 【特質】 ・近景の農地の広がりや伝統的な様式の建造物</p>	<p>【視点場】 ・秋篠川は、本来、平城京右京の北方から東南流していたが、平城京の造営により、右京二坊の東よりを直線的に南下するように河川改修され、西の掘河の役目を果たしてきた。 【視対象】 ・薬師寺は、天武天皇9年(680)、皇后(後の持統天皇)の病氣平癒を祈願して飛鳥の地に建立され、平城遷都に伴って現在地に移された。当時は社大、華麗な大伽藍が並び建ったが、幾多の災害、兵火などでそのほとんどを失った。昭和43年以降、金堂、西塔、中門、回廊、講堂が順次復元された。東塔(国宝)は創建時唯一の遺構である。金堂の本尊、薬師三尊像(国宝)はわが国仏教芸術の最高傑作に数えられている。</p>	<p>【視対象】 ・薬師寺を支えてきた農地や民家等の周囲の環境と薬師寺三重塔が一体となった眺望景観である。</p>	<p>【視対象】 ・薬師寺東塔は「竜宮の塔の写し」ともいわれており、以下のような伝説が残されている。 「昔、薬師如来が天竺から渡ってきて、ある工匠に塔の建立を命じた。それから毎日塔の図を引いて苦心したがうまくいかなかった。ある夜、また薬師如来の夢のおつげがあり、竜宮城内の立派な等を見ることができた。その形を写し取ることができ、ついに塔が完成したという。」</p>	<p>【視対象】 ・薬師寺は、「大和国絵図」「奈良名所独案内全」で紹介されている。</p>	<p>【視対象】 ・薬師寺三重塔は、明治時代に薬師寺を訪れたアーネスト・フェノロサが「凍れる音楽」と表現したといわれる(出典は不明)。 ・會津八一は薬師寺について以下の歌を詠んでいる。 「すめえんのあまつをどがめころもてのひまにもずめるあきのそらかな」</p>	<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・薬師寺のある奈良西の京は、「人と自然が織りなす日本の風景百選」にあげられている。 【視対象】 ・薬師寺は、世界遺産として多くの人々に知られている。また、南都七大寺のひとつでもある。 ・奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、薬師寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p>

番号	眺望景観の略称	現状課題(概要)							
		眺望景観の阻害のおそれ			眺望景観の阻害状況		眺望景観の活用状況		
		視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物の建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物が建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景の景観構成要素の適切な保全・管理がもたらめられる	視対象の保存・管理の不行き届きにより、視対象の質が低下するおそれがある	既に視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物がみられる	既に視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物などがみられる	眺望景観や視点場が十分に認知されていない	視点場やアクセス道等が十分に整備されていない
026	歴史の道から垂仁天皇陵への眺望	・近景の農地等は、歴史的風土特別保存地区及び歴史的風土保存区域として保護されており、歴史的風土と不調和な規模の建築物が建てられるおそれは少ない。また、その周囲も市街化調整区域であるため、一定規制は設けられ、また、東側は西の京歴史的景観形成重点地区に指定されており、山並みへの眺望を阻害しない高さとしてとされているため、眺望景観が阻害されるおそれは少ない。	・近景の農地等は、歴史的風土特別保存地区及び歴史的風土保存区域として保護されており、歴史的風土と不調和な形態・意匠の建築物が建てられるおそれは少ない。その周囲のうち東側については、西の京景観形成重点ゾーンに指定されており、眺望景観が阻害されるような形態意匠の建築物は制限されている。	・広がりのあるパノラマ景を維持するため、周囲の農地の広がりを保全することが求められる。	・樹林の管理が求められるが、陵墓であるため、十分な対応が図れないおそれがある。	・特になし	・特になし	・公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	・歴史の道としてハイキングコースに位置づけられ、整備されている。
027	大池(勝間田池)池畔から薬師寺三重塔への眺望	・西の京東側の農地の広がりは市街化調整区域であり、高度制限は設けられていないが、一定規制は設けられており、景観形成重点地区として眺望に配慮した高さとするは規定されているため、眺望を阻害する高さの建築物の建築のおそれは少ない。・JR奈良駅周辺など、塔屋部分が突出することにより眺望を阻害するおそれがある。	・西の京東側の農地の広がりは、景観形成重点地区として形態意匠の制限が設けられている。・JR奈良駅周辺など、屋上広告物に高彩度の色彩が使用されることにより、眺望が阻害されるおそれがある。	・西の京東側の農地の広がりを保全し、建築物等が乱立しないよう土地利用誘導を図ることが求められる。・大池護岸の草地の適切な管理により、薬師寺三重塔への眺望を確保することが求められる。	・薬師寺東塔は国宝に指定され、保護が図られている。また、薬師寺旧境内は国史跡に指定され、保護が図られている。	・遠景の市街地に一部高い建物がみられ、市街地から突出して見える。	・大池護岸の雑草が繁茂している。	・以前から奈良市では重要な眺望景観として位置づけており、現行の都市計画高度地区の根拠のひとつとなっている。また、奈良市都市計画マスタープランでも重要な眺望景観としてあげられている。・奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。奈良の景観宝地図にもあげられている。公募により推薦された眺望景観である。入江泰吉の写真によって有名になり、多くの写真家・観光客が訪れており、十分に認知されているといえる。	・奈良市が重要として位置づけてきた眺望景観であるが、アクセス道や視点場の整備は十分でない。薬師寺と唐招提寺とその間の町並み、駅等を含めた西の京地域の全体的な整備方針の策定が求められる。
028	薬師寺境内から薬師寺堂塔への眺望	・近景は薬師寺境内であり、視線を遮るような建築物・工作物が建てられるおそれはない。・薬師寺周辺は歴史的風土保存区域により十分に保存されているが、遠方に高い建築物が建てられ、背景に映り込むおそれがある(要検証)。	・近景は薬師寺境内であり、不調和な形態意匠等の建築物・工作物が建てられるおそれはない。・薬師寺周辺は歴史的風土保存区域により十分に保存されているが、遠方に高い建築物が建てられ、背景に映り込むことが避けられない場合、その形態・意匠・色彩に配慮することが求められる(要検証)。	・国史跡薬師寺旧境内として十分に保護が図られている。	・薬師寺東塔は国宝に指定されるなど、薬師寺境内の各堂塔は指定文化財として、保護が図られている。また、薬師寺旧境内は国史跡に指定され、保護が図られている。	・特になし	・特になし	・薬師寺自体は世界遺産として知られ、多くの垂仁後脚が訪れる。しかし、それを眺望景観としては捉えていない。(眺望景観として認知させていく必要性はない。政策的課題として背景保全の考え方からの眺望景観である。)	・多くの人が訪れる観光地である。薬師寺と唐招提寺とその間の町並み、大池、駅等を含めた西の京地域の全体的な整備方針の策定が求められる。
029	唐招提寺境内から唐招提寺堂塔への眺望	・近景は唐招提寺境内であり、視線を遮るような建築物・工作物が建てられるおそれはない。・境内周囲は中高木の樹林により取り囲まれているため、背景に建築物等が映り込むおそれはない。	・近景は唐招提寺境内であり、不調和な形態意匠等の建築物・工作物が建てられるおそれはない。	・国史跡唐招提寺旧境内として十分に保護が図られている。	・唐招提寺金堂は国宝に指定されるなど、唐招提寺境内の各堂塔は指定文化財として、保護が図られている。また、唐招提寺旧境内は国史跡に指定され、保護が図られている。	・特になし	・特になし	・唐招提寺自体は世界遺産として知られ、多くの垂仁後脚が訪れる。しかし、それを眺望景観としては捉えていない。(眺望景観として認知させていく必要性はない。政策的課題として背景保全の考え方からの眺望景観である。)	・多くの人が訪れる観光地である。薬師寺と唐招提寺とその間の町並み、大池、駅等を含めた西の京地域の全体的な整備方針の策定が求められる。
030	秋篠川堤防から薬師寺三重塔への眺望	・歴史的風土保存区域であり、歴史的風土に不調和な規模の建築物が建てられることはない。しかし、前景の農地の広がりが失われてしまうと、規模の大小に関わらず薬師寺三重塔が見えなくなる可能性がある。高い。	・歴史的風土保存区域内であるため、歴史的風土と不調和な形態意匠の場合は助言指導で一定の規制される。しかし、伝統的様式の民家などは今後一定の補助がなければ存続していくことは難しく、建替え等により景観が大きく変容するおそれがある。	・全面の農地や伝統的な様式の建築物を保全することが求められる。	・薬師寺東塔は国宝に指定されるなど、薬師寺境内の各堂塔は指定文化財として、保護が図られている。また、薬師寺旧境内は国史跡に指定され、保護が図られている。	・電線類が視界に映り込む。	・周囲の景観に馴染まない簡易な造りの農小屋や倉庫がみられる。	・城戸橋からの眺望は、奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。奈良の景観宝地図にもあげられている。また、公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。	・河川沿いを歩けるようになっているが立ち止まって眺望を楽しむような視点場は設けられていない。

番号	眺望景観写真	視点場	視対象	眺望空間(主要な構成要素)			抽出根拠			類型			
				近景	中景	遠景	資料・委員	公募	アンケート				
031		あやめ新橋	若草山	蛙股池	市街地 / 樹林	若草山等の山並み	-	-	-	-	-	-	-
032		霊山寺霊園境内	大和平野 / 笠置山地	樹木 / 集落	農地 / 樹林	樹林 / 山並み / 農地	-	-	-	-	-	-	-
033		山村町のバス停	若草山	農地	農地	奈良市街地 / 若草山等の山並み	-	-	-	-	-	-	-
034		旧柳生藩家老屋敷	柳生集落	農地	柳生集落	山並み	-	-	-	-	-	-	-
035		県道80号	茶畑等の農地	山林 / 茶畑等の農地	山林 / 茶畑等の農地	山林	-	-	-	-	-	-	-

		奈良市らしさについて						
番号	眺望景観の略称	目に見える景観特性		心で感じる景観特性		情報としての景観特性		
		可視現状	歴史的背景	眺望景観の構成要素の関係	人々の活動や伝説など	観光情報	文人・歌人等の評価	インベントリー
031	あやめ新橋から若草山への眺望	<p>・近景には蛙股池の水面が広がり、遠方の山稜の連なりを望める広がりある眺望景観をつくり出している。</p> <p>・中景に見える樹林の間に通視線ができており、若草山の裾まで見えるため、若草山の象徴性がある。</p> <p>【特質】</p> <p>・水面の広がりや若草山への通視線</p>	<p>【視点場】</p> <p>・あやめ新橋は、昭和13年(1938)に、大阪電気軌道により、蛙股池を周遊する幹線道路(幅員6～8m)とともに完成している。</p> <p>【視対象】</p> <p>・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。元々は樹木の茂った山であったあらし(東大寺山堺四至図)、この山をめぐる東大寺と興福寺の寺領争いの解決のために山上の樹木を焼き払って境界を明確にしたことから禿山になったと言われる。山頂には前方後円墳鶯塚古墳があり、鶯山とも呼ばれる。</p>	<p>【視点場 - 眺望空間】</p> <p>・蛙股池は、足田、青野、菅原、横領といった盆地西部の集落に用水を供給し、人々の生活を支えてきた。</p> <p>・蛙股池周辺の高瀬池地区は、奈良の発展・成熟を支えた西部丘陵地開発のさきがけであり、蛙股池に架けられたあやめ新橋は、住宅地開発の大規模化の要でもあった。</p>	<p>【視対象】</p> <p>・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつ以下がある。</p> <p>・かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。</p>	<p>【視対象】</p> <p>・若草山は、「奈良名所東山一覽之図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</p>	<p>【視対象】</p> <p>・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。</p> <p>「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務卿親王「夫木抄」)</p> <p>「すたつとも みよぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」)</p>	<p>【視対象】</p> <p>・若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。</p>
032	靈山寺境内から大和平野への眺望	<p>・近景の農地の広がりや向こうに農地の広がりや点在する集落、樹林を望むことができる。</p> <p>・集落家屋は低層におさえられ、大規模な建築物や工作物等もみられないため、のどかな農村風景を享受できる。</p> <p>【特質】</p> <p>・集落・農地・樹林等の土地利用のバランス</p>	<p>【視点場】</p> <p>・靈山寺は、天平8年(736)落慶。平安時代、弘法大師が来寺し、登美山に力の強い龍神様があらると感得され、奥の院に大辯財天女尊(弁天さん)として祀った。それまで当寺は法相宗であったが、弘法大師が真言宗を伝え、以後法相宗と真言宗の2宗兼学の寺となった。鎌倉時代には北条氏の帰依厚く、弘安6年(1283)本堂の改築、堂塔寺仏の修復新調が行われ、僧坊21ヶ寺という所説からも非常に栄えた。その後、豊臣秀吉の社寺政策により寺領百石を与えられ、また徳川幕府にも受け継がれ、御朱印寺として国家安泰と五穀豊穡そして幕府の武運長久を祈願してきた。明治維新の廃仏毀釈により、伽藍規模は半減、200体以上の仏像が焼却された。現在は復興され、国宝重文建物6棟、重文仏像宝物30余点を所蔵している。</p>		<p>【視点場】</p> <p>・神龜5年(728)流星が宮中に落下し、大騒ぎになり孝謙皇女が征中の病にかかられた時、聖武天皇の夢枕に鼻高仙人が現れ、湯屋の薬師如来を祈念すれば治るとのお告げがあり、すぐに行基菩薩が代参。皇女の病が快癒した。天平6年(734)聖武天皇は行基菩薩に大堂の建立を勅命、天平8年8月インド(バラモン)僧、菩提傳那が来日し、登美山の地相が靈鷲山にそっくりということから、寺の名称を靈山寺と奏上し、落慶となった。</p>			<p>【視対象】</p> <p>・奈良盆地(大和平野)は、「疏水百選」に選定されている。</p>
033	山村町バス停から奈良市街地、若草山への眺望	<p>・視点場がやや高台に位置していることから、中景から近景にかけての広大な農地が、パノラマ景をつくりだし、奈良盆地の地形的特徴を一望できる。遠景には奈良市街地の広がりや望め、山並みのなかに若草山を望むことができる。また興福寺五重塔をすかすかに望むことができる。</p> <p>【特質】</p> <p>・近景から中景にかけての広大な農地のひろがり</p>	<p>【視対象】</p> <p>・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。元々は樹木の茂った山であったあらし(東大寺山堺四至図)、この山をめぐる東大寺と興福寺の寺領争いの解決のために山上の樹木を焼き払って境界を明確にしたことから禿山になったと言われる。山頂には前方後円墳鶯塚古墳があり、鶯山とも呼ばれる。</p>		<p>【視対象】</p> <p>・若草山では、毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、そのひとつ以下がある。</p> <p>・かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたので、宝暦10年(1760)に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決した。以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったという。</p>	<p>【視対象】</p> <p>・若草山は、「奈良名所東山一覽之図」「いんばんや絵図」「奈良名所細見図」など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</p>	<p>【視対象】</p> <p>・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。</p> <p>「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務卿親王「夫木抄」)</p> <p>「すたつとも みよぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」)</p>	<p>【視対象】</p> <p>・若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。</p>
034	旧柳生藩家老屋敷から柳生集落への眺望	<p>・近景に広がる水田は、柳生集落へのパノラマを創り出すとともに、背後の山林と一体となって、四季の移ろいを感じられる彩り豊かな自然景観を創り出している。</p> <p>・山裾に街村状に連なる柳生集落には、新しい建築物等もみられるが、低層に抑えられており、農地・集落・山林の明確な土地利用の秩序が残されているため、全体として自然に溶け込んだ美しい眺望景観を創り出している。</p> <p>【特質】</p> <p>・小さく低層にまとまる集落とその甍の連なり</p>	<p>【視点場】</p> <p>・旧柳生藩家老屋敷は、国家老として柳生の里に移り、藩財政を立て直した小山田主鈴が、藩主柳生俊章から賜った土地に営んだ旧隠居宅であり、山岡荘八が「春の坂道」の原作の構想を練った場でもある。現在は県文化財に指定され、資料館として利用されており、当時を忍ばせる遺品等が展示されている。</p>	<p>【視点場 - 眺望空間】</p> <p>・剣豪の里として数多くの説話・伝承が残され、語り継がれている。</p> <p>・山中にも、柳生家にまつわる剣豪の里らしい歴史文化遺産が数多く分布し、視覚的には見えないものの、歴史を感じられる眺望景観である。</p>	<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】</p> <p>・柳生十兵衛が家光の内命で西国大名の動向を探るため、10年余り西国・九州をめぐるが、その出立の際、先祖の墓所である中宮寺に一株のスギの若木を植えておいた、それが十兵衛杉として、柳生の里の象徴となっている。</p>		<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】</p> <p>・柳生は、山岡荘八が剣術家・柳生但馬守宗矩の生涯を描いた小説「春の坂道」を著し、1971年に同小説をもとにNHK大河ドラマ「春の坂道」が放送されることにより有名になった。</p>	<p>【視点場 - 視対象 - 眺望空間】</p> <p>・奈良が「新日本観光地百選」に選定されたなかの観光地の一つとして柳生もあげられており、奈良と柳生を結ぶ柳生街道は「歴史の道百選」にも選定されている。</p>
035	県道80号から沿道の茶畑、田園風景への眺望	<p>・周囲を山林に囲まれた道路沿道の所々に地形に応じて波打つ茶畑が広がり、ゆとりある景観をつくりだし、茶畑、田園、山林が変化に富んだ緑豊かなシーケンス景観をつくりだしている。地形特性に応じた土地利用の知恵を感じることができる。</p> <p>【特質】</p> <p>・山林と茶畑等の農地がつくるシーケンス</p>	<p>【視対象】</p> <p>・田原茶の起源は相当古いのが明瞭ではない。文献での初見は、山本平左衛門忠辰の日記であり、元禄7年5月10日の条に「茶摘う始ム」とある。</p>		<p>【視対象】</p> <p>・生業として古くから茶生産が営まれてきている。</p>			

番号	眺望景観の略称	現状課題(概要)							
		眺望景観の阻害のおそれ				眺望景観の阻害状況		眺望景観の活用状況	
		視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物の建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物が建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景の景観構成要素の適切な保全・管理がもたらめられる	視対象の保存・管理の不行き届きにより、視対象の質が低下するおそれがある	既に視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物がみられる	既に視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物などがみられる	眺望景観や視点場が十分に認知されていない	視点場やアクセス道等が十分に整備されていない
031	あやめ新橋から若草山への眺望	・蛙股池の東側一帯は第一種低層住居専用地域が広がるため、支援を遮るような大規模な建築物等が建築されるおそれは少ない。	・周囲の景観と調和しない形態意匠等の住宅や工作物が建築されるおそれがある。	・蛙股池の水面の広がりの保全が求められる。 ・中景に見える樹林の間に通視線の保全が求められる。	・若草山は、名勝、風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。	・電線類が視界に映り込む。	・北側の第一種住居地域をはじめ、ところどころに周囲の景観と不調和な建築物や工作物がみられる。 ・白いガードレールが帯のように連なり、浮き立って見える。	・公募により推薦された眺望景観である。	・立ち止まって眺望を楽しむような視点場は設けられていない。
032	霊山寺境内から大和平野への眺望	・近景から中景に広がる農地は、市街化調整区域であり、一定規制はかけられているが、個別の農地転用などにより、視線を遮るような建築物等が建設されるおそれがある。	・近景に広がる農地は、市街化調整区域であり、一定規制はかけられているが、個別の農地転用などにより、広がりのある農地景観に馴染まない形態意匠等の建築物等が建設されるおそれがある。	・樹林の適切な管理、農地の広がりの保全が求められる。	・農地の広がりの保全が求められる。	・特になし	・特になし	・霊山寺自体は本堂が国宝であること、その他多くの文化財を有すること、蕃藪庭園があることで有名であるが、眺望景観の視点場としての認識は薄いと考えられる。	・視点場としての整備はされていない。
033	山村町バス停から奈良市街地、若草山への眺望	・近景から中景に広がる農地は、市街化調整区域かつ農業振興地域であり、農振農用地も広く指定されているため、大きな土地の改変のおそれは少ない。しかし、個別の農地転用などにより、視線を遮るような建築物等が建設されるおそれがある。	・近景から中景に広がる農地は、市街化調整区域かつ農業振興地域であり、農振農用地も広く指定されているため、大きな土地の改変のおそれは少ない。しかし、個別の農地転用などにより、広がりのある農地景観に馴染まない形態意匠等の建築物等が建設されるおそれがある。 ・屋外広告物等の設置による景観阻害のおそれがある。	・広大な農地の広がりを保全すること、また、農地と市街地の土地利用の際の景観づくりが求められる。	・若草山は、名勝、風致地区や歴史的風土保存区域等により保護されている。 ・若草山のノシバや周辺の山林の適切な管理が求められる。	・特になし	・大規模なプラントなどの工作物が市街地の縁辺部に突出して見える。 ・広大な農地のなかに、いくつか住宅が点在している。	・公募により推薦された眺望景観であるが、奈良市街地からは離れた場所に位置するバス停であり、多くの人が眺望の良い視点場として認知しているとは考えられない。	・歩道のない道路上に、バス停として少し広がりのある場所が設けられている。視点場としての整備はされていない。
034	旧柳生藩家老屋敷から柳生集落への眺望	・近景に広がる農地は、市街化調整区域かつ農業振興地域であり、農振農用地も広く指定されているため、大きな土地の改変のおそれは少ない。しかし、個別の農地転用などにより、視線を遮るような建築物等が建設されるおそれがある。	・近景に広がる農地は、市街化調整区域かつ農業振興地域であり、農振農用地も広く指定されているため、大きな土地の改変のおそれは少ない。しかし、個別の農地転用などにより、広がりのある農地景観に馴染まない形態意匠等の建築物等が建設されるおそれがある。 ・屋外広告物等の設置による景観阻害のおそれがある。	・農地の保全ならびに背景の山林の適切な管理が求められる。	・市街化調整区域であるが、特にその他保全施策は設けられていない。屋根並みの形成など、集落景観の保全・形成のための施策が求められる。	・電線類が視界に映り込む。	・低層ではあるが、大規模な倉庫や高彩度の屋外広告物が目立って見える。 ・集落の屋根並みは、その形態・素材が多様化しており、統一感には欠けている。	・観光客アンケートであげられた眺望景観である。	・視点場としての整備はされていない。柳生集落や周囲の歴史文化遺産との関係が分かるような案内板等の設置が検討できる。
035	県道80号から沿道の茶畑、田園風景への眺望	・山間の茶畑であり、土地利用的に沿道に建築物等が建設されるおそれは少ないと考えられる。	・山間の茶畑であり、土地利用的に沿道に建築物等が建設されるおそれは少ないと考えられる。	・周囲の山林についても適切な管理を進め、総体として美しい自然景観の形成が求められる。	・市街化調整区域であり、農振農用地として保全されている。農業の支援により生業として持続していくことが求められる。	・特になし	・沿道のガードレールが白い帯のように連なり、突出して見える。	・田原地域の茶畑は有名であり、その景観は多くの人が知っていると考えられる。しかし、眺望景観として認知はされていないと考えられる。	・(自動車からのシークエンスが中心となる。)

番号	眺望景観写真	視点場	視対象	眺望空間(主要な構成要素)			抽出根拠			類型			
				近景	中景	遠景	資料・委員	公募	アンケート				
036		貝那木山城跡	都祁の里	山林 / 樹林	集落 / 農地	山並み	-	-	-	-	-	-	-
037		三陵墓古墳群史跡公園	都祁水分神社社叢	水田 / 三陵墓古墳群	水田	山並み / 都祁水分神社社叢 / 小治田安萬侶の墓	-	-	-	-	-	-	-
038		展望台	月ヶ瀬梅林	名張川	月ヶ瀬梅林	山並み / 集落	-	-	-	-	-	-	-
039		追分梅林	奈良市街地 / 山並み	追分梅林	樹林	奈良市街地 / 山並み	-	-	-	-	-	-	-
040		ならやま大通り	山並み	樹林 / 古墳	沿道建築物 / 古墳	山並み	-	-	-	-	-	-	-

		奈良市らしさについて						
番号	眺望景観の略称	目に見える景観特性		心で感じる景観特性		情報としての景観特性		
		可視現状	歴史的背景	眺望景観の構成要素の関係	人々の活動や伝説など	観光情報	文人・歌人等の評価	インベントリー
036	貝那木山城跡から都祁の里への眺望	・貝那木山の山頂からは都祁野を一望でき、大和高原(都祁の里)の四季の景観を楽しむことができるパノラマ景が広がる。 ・山間の比較的広がりのある平地に農地が広がり、そのなかには小丘や山地から伸びる尾根筋が地形を特徴付けるとともに、山裾を中心に集村集落が点在しており、山地・農地・集落の明確な土地利用が美しい山間農村の眺望景観を創り出している。 【特質】 ・小さくまとまる集落と周囲に広がる農地・樹林等の土地利用のバランス	【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・中世期の遺構が数多く残る平地は、中世都祁郷を理解する上で欠かせない地域である。	【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・貝那木山城は、天文年間に、多田延実が都祁地方一帯を支配するために築城した山城であり、主郭部からは、都祁の町並みが一望でき、町を押さえる要衝に築城された城であることが伺える。	【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・大和国北東部の山間部に位置する都祁地域は、大和地方のなかでも早くから人が住み着き、小さな文化圏を形成し、大和朝廷とは異なる文化・文明が栄えた地域とも言われている。 ・都祁地域一帯には、山岳信仰を根本とした祀り場の跡や独特な伝承が多く残り、都祁地域の集落と山との関係に基づく文化的な景観を一望できる。			
037	三陵墓古墳群史跡公園から都祁野盆地への眺望	・墳丘上に整備された史跡公園に視点が位置しているため、北側から西側にかけてパノラマ景が広がり、すり鉢状に広がる都祁野盆地の農地の広がり、点在する集落や都祁水分神社を一望できる。 【特質】 ・小さくまとまる集落と周囲に広がる農地・樹林等の土地利用のバランス	【視点場】 ・前方後円墳の東古墳、円墳の西古墳、南古墳の三基で構成される古代都祁を支配していた一族の墓と伝えられる。特に東古墳・西古墳は、古墳時代中期の大和高原において最大クラスの古墳で、重要な遺跡であることから、県の史跡に指定され、史跡公園として整備された。 【視対象】 ・小治田安萬侶の墓は、奈良時代の官僚小治田朝臣安萬侶の火葬墓で、1969年に国史跡に指定されている。小治田安萬侶は蘇我稲目の後裔にあたる奈良時代の役人で、文武から聖武まで四代の天皇に仕えた高官であった。 ・都祁水分神社は、大和国水分四社(都祁・宇陀・吉野・葛城)の一つで、古来から水の神として崇拝されてきた。一間舎春日造の現在の本殿は、室町中期の明応8年七ヶ庄の反米によって造営されたものであり、貴重な中世の遺構として、国の重要文化財に指定されている。		【視点場 - 視対象 - 眺望空間】 ・大和国北東部の山間部に位置する都祁地域は、大和地方のなかでも早くから人が住み着き、小さな文化圏を形成し、大和朝廷とは異なる文化・文明が栄えた地域とも言われている。			
038	展望台から月ヶ瀬梅林への眺望	・近景の名張川の渓谷がパノラマ景をつくりだし、渓谷越しに山裾に広がる梅林の連なりを望むことができる。 ・山腹に民家がはりついて形成された集落が特徴的な景観をつくりだしている。 【特質】 ・梅林の連なりと山腹にはりつく集落	【視対象】 ・月ヶ瀬梅林は、ダム建設による移植等はあるものの、600年以上の歴史を有する。大正11年(1922)には国名勝に指定されている。 ・昭和43年に名張川に月ヶ瀬橋が架けられる。		【視対象】 ・梅の実を利用した烏梅製造や甘露梅の製造販売などが行なわれてきた。近世末以降、梅林を利用した観光産業の展開をもみせており、古くから梅林とともに生活し、多様な形で生業として活用してきた伝統的活動が、福田本店などの甘露梅販売店舗や土産物屋など、またそれらを含む集落と一体となって、固有の歴史的風致を形成している。 ・月ヶ瀬梅林には以下の伝説が残されている。 「笠置落城のとき、園王という妃が裸のまま落ち延び、月ヶ瀬の尾山で村人に助けられ永住された。都の習わしどおり、紅を使おうというので、その原料の梅を植えたのが月ヶ瀬梅林のはじまりという。」	【視対象】 ・月ヶ瀬梅林は、1830年に齊藤拙堂(津藩・儒学者)が著した書物「月ヶ瀬記勝」により、名勝としての地位を確立させた。それ以降、「月ヶ瀬尾山長引梅深真景之図」「月ヶ瀬深淵躑躅川真景」などの名所案内記が出され、「奈良明細全図」でも紹介されている。		
039	追分梅林から奈良市街地及び山並みへの眺望	・高台に位置しているため、奈良市街地と東部の山並みを一望できる。梅の季節は近景に梅の花が咲き誇り、より一層美しい眺望をつくりだす。 【特質】 ・近景の梅林の広がり	【視点場】 ・大坂と奈良を結んだ暗越奈良街道のルートにあたり、梅林のある追分集落には旧本陣の民家も残る。 ・追分梅林は、昭和43年(1968)に開かれた農業梅林であり、緩やかな両谷間の斜面に約4,000本の梅林が植えられている。開設に際しての雑木林の伐採、造成工事中に多量の古瓦が出土し、瓦は奈良時代のもので、興福寺創建期の瓦と同范のものが多く、平城宮でも出土する「田」「矢」の刻印を押した瓦もあった。墓壇などの顕著な遺構は見つからなかったが、奈良時代の寺院跡であることは明らかであり、追分廃寺と名付けられている。 【視対象】 ・若草山は、山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。山頂には前方後円墳鷲塚古墳があり、鷲山とも呼ばれる。		【視対象】 ・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務御親王「夫木抄」) 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」)	【視対象】 ・若草山は、春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの 鳴く」(中務御親王「夫木抄」) 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも 見るかな」(「宇津保物語」)	【視対象】 ・若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。	
040	ならやま大通りから山並みへの眺望	・沿道の樹林が緑豊かな軸線をつくりだし、若草山や春日山へと連なる東側の山並みがアイストップとなる。 【特質】 ・軸線を創り出す沿道の豊かな樹林	【視点場】 ・通称「ならやま大通り」(奈良阪南田原線)は、奈良県奈良市奈良阪町北交差点から生駒市南田原町内に至る全長約12kmの幹線一般市道であり、1960年代半ばから大阪市や京都市、奈良市中心部へのベッドタウンとして開発された奈良市北西部や生駒市北部のニュータウンを結ぶ交通の動脈となっている。昭和41年(1966)に一部区間が開通、昭和63年(1988)3月に生駒市白庭台地区を最後に全通している。					

番号	眺望景観の略称	現状課題(概要)							
		眺望景観の阻害のおそれ				眺望景観の阻害状況		眺望景観の活用状況	
		視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物の建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物が建築・建設されるおそれがある	視対象の前景又は背景の景観構成要素の適切な保全・管理がもたらされる	視対象の保存・管理の不行き届きにより、視対象の質が低下するおそれがある	既に視対象の前景又は背景に、視線を遮る建築物や工作物がみられる	既に視対象の前景又は背景に、良好な眺望景観に馴染まない形態、意匠、色彩の建築物や工作物などがみられる	眺望景観や視点場が十分に認知されていない	視点場やアクセス道等が十分に整備されていない
036	貝那木山城跡から都祁の里への眺望	・高所から盆地全体を見下ろす景観であるため、その眺望を遮るような建築物や工作物の建設のおそれは少ない。	・都市計画区域外であり、交通の利便性も高い地域であるため、大規模な建築物等が立地する可能性もある。	・農地の広がりや集落景観の保全が求められる。	・都市計画区域外であり、特に保全施策は設けられていない、適正な土地利用の誘導が求められる。	・特になし	・周囲の集落や豊かな自然景観に不調和な家屋や工場等がみられる。	・奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。	・アクセス路は整備されているが、傾斜が急傾斜である。
037	三陵墓古墳群史跡公園から都祁野盆地への眺望	・都市計画区域外であり、交通の利便性も高い地域であるため、大規模な建築物等が立地する可能性があり、眺望の中に大きく映り込むおそれがある。	・都市計画区域外であり、交通の利便性も高い地域であるため、大規模な建築物等が立地する可能性があり、その際には、周囲の集落や自然環境との調和に十分に配慮した形態意匠とする等の制限が求められる。	・農地、集落景観の保全が求められる。農業振興等の生業の支援等と連携が求められる。	・三陵墓古墳群は県史跡に指定され保護が図られている。	・特になし	・周囲の集落や自然環境と不調和な形態意匠の建築物もみられる。	・眺望景観の視点場としては十分に認知されていないと考えられる。	・史跡公園として整備されている。
038	展望台から月ヶ瀬梅林への眺望	・近景には名張川が広がり、名勝区域として保護が図られているため、視線を遮るような建築物や工作物の建築等のおそれは少ない。	・近景には名張川が広がり、名勝区域として保護が図られているため、良好な眺望景観に馴染まない形態意匠等の建築物や工作物の建築等のおそれは少ない。・観光化が進んでいるため、幟や屋外広告物等の乱立のおそれがある。	・周囲の山林等の適切な管理を行うことが求められる。	・名勝月ヶ瀬梅林として保護が図られている。	・特になし	・特になし	・古くからの観光名所であり、眺望景観としても多くの人に認知されている。奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。	・道路・駐車場から少し下る斜面に突き出した形で展望台が整備されている。
039	追分梅林から奈良市街地及び山並みへの眺望	・高台から見下ろす眺望であり、近景には市街化調整区域、中景付近には第一種低層住居専用地域が指定されているため、視線を遮るような大規模な建築物等が建築されるおそれは少ない。	・視界に大きく映り込むような建築物等の建築のおそれは少ないため、形態意匠についても問題はないと考えられる。	・梅林の保全を図るとともに、樹林の適切な管理を行うことが求められる。	・歴史的風土保存区域として保存されている。適切な管理が求められる。	・一部区域では第二阪奈道路が移り込む。	・近景の山林が竹林化している。	・眺望景観の視点場としては十分に認知されていないと考えられる。	・視点場としての整備はされていない。
040	ならやま大通りから山並みへの眺望	・風致地区として保全されており、特に南側の樹林は歴史的風土保存区域として保存が図られているため、山並みへの視線を遮るような大規模な建築物等の建築のおそれは少ない。	・道路施設の設置にあたっては、道路を横断しないよう配慮が求められる。	・緑の軸線をつくりだす、沿道の樹林の適切な管理が求められる。	・歴史的風土保存区域として保存されている。適切な管理が求められる。	・特になし	・沿道のガードレールが白い帯のように連なる。錆びてところどころ茶色がかっている。	・眺望景観の視点場としては十分に認知されていないと考えられる。	・(自動車からのシークエンスが中心となる。)